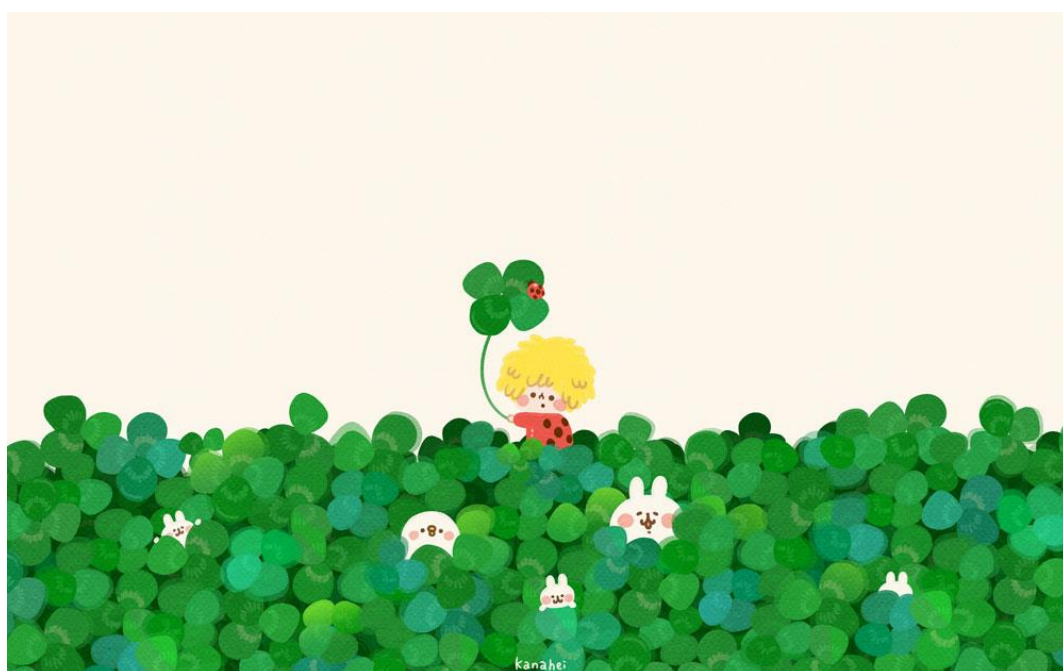


社会福祉法人 丹波市社会福祉協議会

令和 3 年度事業報告



社会福祉法人 丹波市社会福祉協議会

目 次

(項目の後の数字はページ)

令和3年度の取り組み（総括）	1
1. 法人運営	
1) 運営基盤整備	4
①会員制度（会費）	
②善意銀行	
③第三者委員	
④福祉センター等の指定管理	
2) 他機関との協働推進	5
①ほっとかへんネット丹波	
②企業等との協働	
3) 人事・労務	7
職員研修	
①階層別研修	
②広報研修	
③職種別研修	
2. 地域福祉事業	
1) 地域支援	7
①ふれあい・いきいきサロン活動支援	
②たんば子ども食堂事業	
③コミュニティカフェ運営支援事業	
④福祉用具・備品の貸出し	
⑤出張教室事業	
⑥生活支援体制整備事業	
⑦地域支援者連絡会議への参加	新規
⑧地域福祉推進支援事業	
⑨ストップ！要介護助成事業	
2) 当事者支援	13
①ひきこもり支援	新規
②コロナに負けるな！応援プロジェクト	新規
③団体事務助成及び支援	

④在宅寝たきり者世帯歳末見舞の贈呈	
⑤独居高齢者宛書状制作、発送	
⑥見舞金支給	
3) 子育て・教育支援	16
①福祉教育助成事業	
②福祉教育研修会の開催	
③丹波市ファミリーサポートセンター	
④アフタースクール事業	
⑤認定こども園助成	
4) ボランティア活動・団体支援	18
①ボランティアグループに対する活動助成	
②ボランティアまつり開催経費の助成	
③福祉団体等助成	
④ボランティア登録・派遣調整	
⑤災害ボランティア支援事業	
⑥ちーたん災害サポートネット連絡会議の開催	新規
⑦いきいき百歳体操サポーター派遣	
⑧ボランティア養成講座・交流会等の開催	
5) 情報提供・啓発活動	20
①広報紙の発行	
②ウェブサイト・SNSの運営	
③社協ふくしまつりの開催	
④福祉バザー	
3. 生活支援事業	
1) 生活困窮者支援	21
①生活福祉資金の貸付（特例貸付）	
②従前の生活福祉資金の貸付	
③福祉資金の貸付	
④物品援助事業	
2) 権利擁護	23
①日常生活自立支援事業	
②心配ごと相談	
③無料法律相談	

4. 支所別地域支援目標	24
①統一目標	
②支所別地域支援目標	
5. 事業所別行動目標	29
①東部ケアマネジメントセンター	
②西部ケアマネジメントセンター	
③ホームヘルプセンター	
④東部デイサービスセンター	
⑤西部デイサービスセンター	
⑥訪問入浴サービスセンター	
⑦相談支援事業所	
⑧東部地域包括支援センター（介護予防）	
⑨東部地域包括支援センター（地域包括）	
6. その他の事業	46
①介護職員初任者研修（補助事業）	
②障がい者就労支援事業（受託事業）	
③障がい者相談支援事業（受託事業）	
7. 事業所別稼働率一覧表	47

令和３年度の取り組み（総括）

【社協地域福祉ビジョンの推進とコロナ禍による影響】

令和元年度に策定した「丹波市社協地域福祉ビジョン」に基づき、行政担当部局と連携しながら財政健全化の取組みの促進を図ってきました。

令和３年度は財政健全化の取組として、財政状況を確認するために分析業務を委託し報告をいただきました。令和４年度は報告を基にして今後の社協活動の方向性を出していきます。

また、新型コロナウイルス感染症は全国的に感染が拡大し未曾有のパンデミックの下、地域福祉活動や介護保険事業所運営等は大きな制約を受けましたが、感染拡大防止等の諸課題に対応しながら、出来るだけ平常の活動を行えるように住民とのつながりを大切にし、様々なきっかけづくりとなる事業の推進を図りました。

とりわけ、「コロナに負けるな！応援プロジェクト」では、人と人とのつながりが途切れることのないように取り組んできました。事業に参加協力いただきました皆様の笑顔は、何ものにも代えがたいものでありました。

地域福祉事業の推進を図る上で欠かすことのできない介護保険事業は、近年の社会情勢の激変に伴い事業収入は減少化傾向であり、更にコロナ禍の影響により事業運営は非常に苦しいものとなっており、地域におけるパイロット事業としての役割が終えたとして東部デイサービスセンターを閉所させていただきました。

委託を受けておりました柏原地域のアフタースクールにつきましても、利用者の安全性の確保等から令和３年度末をもって委託業務の解消を行いました。

（令和３年度事業計画の重点推進事項）

（１）社協地域福祉ビジョンの促進

近年の社会情勢は目まぐるしく変化しており、とりわけ介護保険事業を取り巻く環境変化は厳しいものがあります。地域福祉ビジョンについては、適宜見直しを行いながら丹波市社協のあるべき姿を目指して、住民に寄り添い丹波市社協としての独自性を発揮できる体制整備を行ってまいりました。

（２）社協地域福祉推進計画の推進（１年目）（気づく）（はじめる）（つながる）

行動目標「気づく」「はじめる」「つながる」が円滑に進められるよう、社協の体制を整え、住民の皆様から頼りにされる社協となるよう努めました。

①アウトリーチの徹底

コロナ禍の影響で自治会行事やサロン等が開催自粛・中止される中、社協としては感染防止対策を講じながら可能な限り各支所を中心に地域に出向く姿勢を取りました。

②相談・支援体制の強化

コロナ禍における生活支援策として、特例貸付制度への対応や独自の応援プロジェクトを実

施する中で、これまで相談がなかった若い方や外国人、従来の貸付では対象外となっていた高齢者など、様々な方が相談に来所されるようになっていきます。内容を充分聴き取り、関係機関等と連携して対応してまいりました。

また、フードドライブでは継続して申請される方が多いことから、本人から生活状況を聴き取り、市と連携して対応しました。

③地域づくりのための活動基盤整備

旧町単位に地域支えあい推進員を配置し、地区においては地区支えあい推進会議、自治会においてはふれあいきいきサロンやいきいき百歳体操、コミュニティカフェの場を活用し、地域の担い手づくりを進めました。

④行政とのパートナーシップ

市担当部署との情報交換の場づくりを随時行いました。また、市民プラザが中心となり地域支援者連絡会議に積極的に参加し、地域福祉担当者が情報共有を行い横のつながりを深めました。

(3) 広報啓発（気づく）

住民の皆様にわかりやすくお知らせするため、新聞記事やFM、防災行政無線等を活用しました。また、SNS（Facebook やInstagram）を活用し、地域で行われている福祉活動や社協の事業を広くPRしました。

(4) ひきこもり者及び家族への支援体制づくり（気づく）

全国的に「8050 問題」が取りざたされている中、長引くコロナ禍で社会的交流ができなくなるなどしてひきこもり状態に陥りやすい状況が続いています。今年度は地域の相談窓口である民生委員を対象に、ひきこもりの方への処遇等の研修会を開催し、次年度の取組みにつなげました。

(5) コロナに負けるな！応援プロジェクト（仮称）（はじめる）（つながる）

コロナ禍における生活課題等から、よりそい応援できる事業を5つ立ち上げ、実施しました。個人から事業主・団体及び広く丹波市民を対象に、積極的に広報を行いながら進めました。

(6) 介護保険事業所等の健全な経営の実施（気づく）（つながる）

長期計画（地域福祉ビジョン）に基づき、東部デイサービスセンターの令和2年度決算状況を踏まえて人員、設備を含め総合的に判断した結果、同センターを今年度末で閉所することとしました。今後の介護保険事業経営の安定化及び人員不足の緩和を目指したものです。現在利用中の利用者及び家族には年度末の閉所について説明して理解を求めたうえで、担当の介護支援専門員と相談のうえ、他の事業所へ移行していただきました。また、所属職員には他の事業所へ配置転換できるよう面談を行いました。閉所に向けた活動となり、大きな減収となりました。

訪問入浴サービスセンターは、市に要望していた運営支援が確定し、今年度より利用実績に応

じて補助金が交付されるため、経営改善されました。

東部・西部ケアマネジメントセンター及びホームヘルプセンターの実績は、年度を通じて安定した運営となりました。西部デイサービスセンターの実績は、年度当初より利用者数が伸びず収入減少を招き、利用者増加に向けた取り組みや支出削減に努めてまいりましたが、効果が少なく多額の赤字となりました。

その他、前年度より介護保険事業所等経営会議を定期的に行い、経営改善に向けた検討を重ねました。

（７）職員研修の充実による次世代の職員養成（気づく）

地域福祉を進める職員は、地域に出向くことで市民ニーズの把握を行うと共に職員としての資質を高め、介護保険事業の職員は実践や職場内での業務を通じてスキルアップを行いました。また、全体としては、コロナ禍ではありますが可能な限り社協独自の研修会の開催や県社協等の講演会や研修会に積極的参加を進め、激変する社会に対応できる職員育成に努めました。

1.法人運営

1) 運営基盤整備

①会員制度（会費）

社協会費への協力実績額は、コロナ禍による経済活動の悪化やご家庭においても様々な事情がある中、変わらぬご支援・ご協力をいただき、横ばいを維持している状況です。しかしながら、人口減少や市外への転出、自治会への未加入世帯の増加などの課題があり、自治会への未加入世帯などが多く居住されるアパート等への事業チラシや協力依頼文のポスティングを行い、社協事業の周知と社協会員の拡充を推進しました。

地 域	社協会員の拡充に向けた実践内容	ポスティング、新規依頼件数
柏 原	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①1,090 世帯（加入実績 30 世帯） ②276 社（加入実績 32 社）
氷 上	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①1,050 世帯（加入実績 33 世帯） ②271 社（加入実績 6 社）
青 垣	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①37 世帯（加入実績 1 世帯） ②4 社（加入実績 1 社）
春 日	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①70 世帯（加入実績 2 世帯） ②6 社（加入実績 1 社）
山 南	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①64 世帯（加入実績 1 世帯） ②12 社（加入実績 0 社）
市 島	①自治会未加入世帯へのポスティング ②法人会費の新規依頼	①171 世帯（加入実績 5 世帯） ②23 社（加入実績 1 社）

②善意銀行

善意銀行へ預託をされた方の思いを尊重し、貴重な財源として市内での地域福祉推進のための事業に有効活用しました。

月	金銭預託件数	物品預託件数	技術預託件数	預託金額（円）
4 月	13	18	0	179,834
5 月	6	13	0	138,788
6 月	8	21	0	269,986
7 月	10	4	0	180,686
8 月	9	19	0	163,374
9 月	6	23	0	145,000
10 月	9	23	0	80,197
11 月	11	40	0	356,926
12 月	24	39	0	934,141
1 月	10	17	0	307,611

月	金銭預託件数	物品預託件数	技術預託件数	預託金額（円）
2月	7	14	0	146,457
3月	11	16	0	96,105
合 計	124	247	0	2,999,105

③第三者委員

福祉サービスの提供に対する苦情への適切な対応により、社協の信頼や適性の確保を図るため、各施設に担当職員の表示を行うとともに第三者委員の氏名も公表しました。

④福祉センター等の指定管理

市民の福祉向上及び地域福祉活動の促進を図る拠点となる福祉センター等の指定管理者として、柏原福祉センター、氷上健康福祉センター、春日福祉センター、山南福祉センターの管理運営を行いました。

２）他機関との協働推進

①ほっとかへんネット丹波（丹波市社会福祉法人連絡協議会＝社福連）

各社会福祉法人が地域社会への貢献をめざして公益活動を実施するため、社会福祉法人間のネットワークづくりや情報交換を通じて地域福祉の推進を図っています。

そのためにも、福祉人材の確保は喫緊の課題であり、福祉人材確保事業を積極的に実施していますが、コロナ禍の影響を受け各地域での各種イベント等が中止される等、社福連の行事も縮小、中止が相次いでいます。

また、コロナ禍のような時こそ社会福祉法人の必要性が求められており、感染拡大の危険性を背負いながらも必要なサービスを継続して提供できる体制を築いてきました。

（会議等の開催状況）

開催月日	会議・行事名	協議内容
5月24日	新型コロナワクチン接種に関する要望書提出	丹波市に要望書を提出 5月31日市より回答
6月3日	新型コロナウイルス感染症対策に係る宿泊費補助金交付要綱制定	丹波市補助金交付要綱
6月7日	役員会	定期総会及び福祉人材確保事業について
6月25日	定期総会	書面決議
7月毎週土曜日	丹波市コロナワクチン接種会場支援	接種会場の案内係として17名参加 （うち社協9名参加）
7月29日	人材確保対策打合せ会議	行政関係部署との人材確保に係る打合せ
8月2日	県社協主催代表者等連絡会	澤村会長出席（社協は事務局として出席）

開催月日	会議・行事名	協議内容
10月13日	役員会	令和3年度人材確保事業について 研修会の開催について
11月5日	介護体験セミナー	未経験者を対象とする入門的セミナー
11月23日	就職フェア	社会福祉法人合同就職説明・面接会
12月15日	福祉施設見学会	市との共催で福祉施設の見学会
12月15日	FM805 丹波の福祉出演	「丹波市社会福祉法人連絡協議会の活動について」 山口副会長出演
2月22日	研修会	講演「丹波地域フィールド実習の展望と期待」 講師「武庫川女子大学 松端克文教授」
2月28日～ 3月1日	丹波市福祉フィールドワーク	武庫川女子大学の事業に協力
3月14日	県社協主催代表者等連絡会	澤村会長出席（社協は事務局として出席）

②企業等との協働

令和元年度に買い物困難者支援協定を締結したコープこうべとの連携をさらに深めていくとともに、企業等の社会貢献を支援し、地域共生社会の実現に向けた中間支援を進めました。

【コープ柏原店の常設フードドライブ収集品受け取り】

支 所	要請回数	活用品数
柏 原	15 回	284 点
氷 上	12 回	196 点
青 垣	0 回	0 点
春 日	1 回	5 点
山 南	21 回	706 点
市 島	4 回	78 点
合 計	53 回	1,269 点

【支援物品受け取り】（コープこうべ第4地区本部、コープ柏原店から）

受け取り日	受け取り物品
8月23日（月）	兵庫米（無洗米）2kg パック 60袋（本部）
	折り畳みコンテナ2箱分（柏原店）

【フードドライブ収集品受け取り】（コープこうべ協同購入センター丹波から）

受け取り日	受け取り物品
9月29日（水）	段ボール箱10箱分、米100kg
2月16日（水）	段ボール箱4箱分、米40kg

【フードドライブ収集品受け取り】(株)タンバンベルグから)

受け取り日	受け取り物品
11月8日(月)	段ボール箱10箱分、米100kg
3月4日(金)	段ボール箱8箱分、米60kg

3) 人事・労務

①階層別研修

職業倫理をテーマに、身近な例を取り上げ、社協職員としての行動原則を振り返り、遵守すべき法令や規範について考え学びました。

対 象	日 程	内 容	参加者数
幹部職員	① 9月2日(木) 13:30~15:30	コンプライアンス研修 講師: シーズオブモチベーション 山田 真司 氏	36 名
一般職員	② 9月6日(月) 13:30~15:30		31 名

②広報研修

下半期に組織した広報委員会で研修内容を協議し、2種類の研修を企画しました。

社協の活動内容を住民の皆様にご理解いただくため、効果的な広報ができる職員を養成するために開催しました。

開催日	内 容	参加者数
2月7日(月) 8日(火)	ホワイトボードミーティングの進め方を通じて ファシリテーションの基礎を学ぶ	10 名(オンライン)
2月22日(火)	撮影した動画を編集する技術を学ぶ PHOTO PO! 代表 前川 智洋 氏	12 名(集合)

③職種別研修

コロナ禍により研修の機会は減っていますが、オンラインでの研修には積極的に参加しました。また、事業所別では専門分野の研修を行うなどしました。

2.地域福祉事業

1) 地域支援

①ふれあい・いきいきサロン活動支援

地域で取り組まれるサロンの運営及び活動を支援するため助成を行いました。助成以外にも、各支所においてサロン活動のための資料提供や、運営助言などを行いました。

ただ、コロナ禍により行事等が自粛され、昨年度より回数等減少しています。

地 域	助成件数 (うち新規助成件数)	助成決定額
柏 原	8 (0)	239,000
氷 上	33 (0)	1,010,000
青 垣	21 (0)	687,000
春 日	12 (0)	338,000
山 南	40 (0)	1,344,000
市 島	30 (0)	879,000
合 計	144 (0)	4,497,000

②たんば子ども食堂事業

初回 決定年度	決定団体	開設準備経費 (円)	運営費支援 (円)		
			R 1	R 2	R 3
R 1	さちよふれあい食堂 (氷上)	199,735	30,000	35,000	25,000
R 1	さきやまキッチン (市島)	59,135	20,000	-	-
R 2	にこにこキッチン (氷上)	200,000	-	60,000	55,000
R 3	丹波つながり SPACE (氷上)	131,946	-	-	25,000

③コミュニティカフェ運営支援事業

地 域	申請自治会等
柏 原	なし
氷 上	生郷自治振興会
青 垣	惣持自治会、井ノ口・中井サロン
春 日	なし
山 南	なし
市 島	なし

④福祉用具・備品の貸出し

	本所	柏原	氷上	青垣	春日	山南	市島	合計
車いす延べ貸出し回数	14	13	38	8	16	14	16	119
レクリエーション用具延べ貸出し回数	0	75	95	37	117	56	56	436
福祉体験用具延べ貸出し回数	12	10	22	0	23	6	9	82

⑤出張教室事業

自治会活動、サロンやいきいき百歳体操の自粛により出張教室事業も開催要請が少ない状況が続いています。

地 域	延べ開催回数	延べ参加人数	前年度同期	
			延べ開催回数	延べ参加人数
柏 原	2	53	3	65
氷 上	4	77	3	46
青 垣	10	148	10	106
春 日	4	171	5	190
山 南	7	102	1	20
市 島	5	74	3	50
合 計	32	625	25	477

⑥生活支援体制整備事業

●丹波支えあい推進会議（第1層）の開催状況

3月11日（金）開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の陽性者が発生したため、急遽中止となり、委員には資料を郵送しました。

●第2層協議体の設置状況（3月末現在）

地 域	協議体名	設置時期	主なメンバー
柏 原	柏原地域支えあい推進会議	平成30年8月～	自治会長協議会、自治協議会、民生委員児童委員、一般住民
氷 上	かどの地区生活支援サービス推進会議	平成30年2月～	自治振興会、自治会長、民生委員児童委員、民生児童協力委員
	中央地区「和」サポート会議	平成31年3月～	自治振興会、自治会、民生委員児童委員、ボランティア、PTA、一般住民
	沼貫地区自治会長・民生委員児童委員合同会議	令和2年1月～	自治振興会、自治会長、民生委員児童委員
	生郷地区支えあい推進会議	令和3年11月～	自治振興会、民生委員児童委員
青 垣	SAJI ささえあい推進会議	令和元年6月～	自治振興会、自治会、民生委員児童委員、ボランティア、行政、地域包括支援センター
	一般財団法人神楽自治振興会	平成31年4月～	自治振興会理事、評議員
	芦田支え合い推進会議	令和2年7月～	自治振興会、民生委員児童委員、ボランティア、福祉委員
春 日	春日部地区支えあい組織づくり委員会	平成28年12月～	自治会長、民生委員児童委員、民生協力委員、福祉委員、公民館主事、くらし応援隊等

地 域	協議体名	設置時期	主なメンバー
	大路地区地域福祉委員会	平成 30 年 7 月～	消防団、校区事業部、民生福祉部、役員経験者、年代別委員、自治協議会役員
	黒井地区生活支援サービス推進会議・意見交換会	平成 30 年 1 月～	自治協議会、自治会長会、民生児童委員、サロン、いき百、老人クラブ連合会
市 島	前山地区自治振興会と地域住民の意見交換会	平成 29 年 3 月～	地区内のボランティア団体、前山地区自治振興会等
	竹田地区生活支援サービス推進会議	平成 29 年 8 月～	竹田地区自治振興会、民生委員児童委員、老人クラブ、ボラティアグループ
	美和地区生活支援サービス推進会議	平成 29 年 9 月～	美和地区自治振興会、自治会、民生委員児童委員、民生児童協力委員、一般住民等
	吉見地区生活支援サービス推進会議	平成 29 年 9 月～	吉見地区自治振興会、福祉委員、民生委員児童委員、仲よし会、男女共同参画委員、介護保険事業所、有識者等
	鴨庄地区地域支援会議	平成 29 年 2 月～	自治振興会、自治会、民生委員児童委員、福祉委員、老人クラブ、ボランティア団体、NPO 法人、PTA

●第 2 層推進会議に対する社協からの事務支援の状況

第 2 層推進会議の運営に関して、主に地域支えあい推進員が各支所長・支所職員とともに開催の相談、資料の提供、会議当日の支援、報告書の整理などを行いました。

●くらし応援隊養成講座開催状況

既に登録し活動いただいているくらし応援隊員のフォローアップも兼ねて開催しました。

〔9 月 コース〕

開催日	場 所	内 容	受講者数 (既登録者含む)
9 月 7 日	柏原福祉センター	・ どうなる？これからの丹波市 ・ 福祉講演会	15 名 (うち、隊員 2 名)
9 月 9 日		・ そこが知りたい！認知症 ・ 普段に使える会話のポイントあれこれ	13 名 (うち、隊員 3 名)
9 月 14 日		・ パパっとお掃除術！ ・ がんばらないお料理術！	15 名 (うち、隊員 5 名)

開催日	場 所	内 容	受講者数 (既登録者含む)
9 月 16 日		・先輩隊員とワイワイ交流会 ・修了式	13 名 (うち、隊員 3 名)

〔3 月コース〕

開催日	場 所	内 容	受講者数 (既登録者含む)
3 月 5 日	春日福祉センター	・くらし応援隊の活動とは ・丹波市の介護保険・福祉制度の現状 ・福祉講演会	12 名 (うち、隊員 5 名)
3 月 9 日		・認知症サポーター養成講座 ・栄養バランスと時短調理	10 名 (うち、隊員 2 名)
3 月 12 日		・コミュニケーション、傾聴技術を高めよう	7 名 (うち、隊員 3 名)
3 月 16 日		・気を付けたい、食中毒 ・現役応援隊員とのワイワイ交流会	6 名 (うち、隊員 2 名)

●くらし応援隊登録者の町域別登録人数（令和 4 年 3 月末）

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
登録人数	5	8	7	8	13	8	49

●よろずおせっかい相談所つなぎ（地区）の開設

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
設置数	—	—	4	1	1	3	9

●丹波市いきいき百歳体操サポーターポイント制度管理（令和 4 年 3 月末）

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
サポーター登録人数	4	21	5	8	13	10	61

⑦地域支援者連絡会議への参加（新規）

開催日	会議内容	参加者数
5 月 12 日	各組織による地域支援の現状と今年度の方針・計画・予定について	支えあい推進員 5 名 地域福祉課 2 名
8 月 5 日	ケーススタディ「佐治地域自治協議会の全住民アンケートにおける支援者連携」	支えあい推進員 6 名

開催日	会議内容	参加者数
11月5日	地域が自分ごとになる事業説明、地域の担い手の養成、各機関の連携のあり方	支えあい推進員4名 地域福祉課1名
3月8日	今年度の振り返りと次年度の事業振り返り	支えあい推進員4名 地域福祉課1名

⑧地域福祉推進支援事業

支所	校区名	助成額(円)	事業内容
柏原	柏原自治協議会	192,000	柏原地域支えあい推進会議運営事業、子育て交流広場事業、健康・ふれあい広場づくり普及講習会、高齢者お昼の集い
	新井自治協議会	215,000	柏原地域支えあい推進会議運営事業、子ども・子育て交流広場
氷上	中央地区自治振興会	141,950	「和」サポート会議、地域福祉講演会、災害時の支えあい講座、Halloween し CHATTA Part II
	生郷自治振興会	120,000	生郷カフェ「いつ茶丹」
	幸世自治振興会	83,600	「ふれあいサロン」紹介パンフレット及び同サロン呼び込み用幟作成
	沼貫地区自治振興会	200,000	高齢者お昼の集い、黄色い旗を掲げて「元気な証」事業
青垣	芦田自治振興会	61,000	芦田支え合い推進会議
	一般財団法人 神楽自治振興会	60,000	夏休みしぐら学習教室
	遠阪自治協議会	163,465	お昼のつどい「お元気会」、ヨガ教室、中高年の料理教室
春日	黒井地区自治協議会	60,813	シニア・ヌーン・コミュニティサロン、グラウンドゴルフ大会
山南	上久下地域自治協議会	60,000	独居高齢者宅におやつ・衛生セット宅配と見守り活動、独居高齢者宅に友愛弁当宅配と見守り活動
	久下自治振興会	287,716	月曜サロン「にこにこ久下」、小物手作り教室、健康ウォーキング講座
	小川地区自治振興会	267,655	地区一斉ラジオ体操、一から学べるスマホ講座、グラウンドゴルフ大会、フラワーアレンジメントセミナー、ノルディックウォーキング
	ふるさと和田振興会	269,000	子育てママのリフレッシュメイキング、人権ポスター作製・配布、スマホ教室、健康登山、元旦ジョギング大会、よろずおせっかい相談窓口開設、サロンたちばな5周年記念事業

支所	校区名	助成額(円)	事業内容
市島	竹田地区自治振興会	207,367	高齢者お昼のつどい、生活支援サービス体制整備事業
	前山地区自治振興会	300,000	高齢者お昼の集い（見守り活動）、交流サロン、花と緑の交流活動、交流文化祭
	吉見地区自治振興会	140,000	高齢者お昼のつどい（お弁当配布）、生活支援サービス推進会議運営
	鴨庄地区自治振興会	203,679	いきいき百歳体操、地域支えあい活動、高齢者お昼のつどい、なんでもよろず相談サテライト、音楽（ピアノ）によるコミュニケーションづくり
	美和地区自治振興会	61,111	ふれあいの会
合 計		3,094,356	

⑨ストップ！要介護助成事業

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
申請自治会数	0	2	2	0	2	3	9

2）当事者支援

①ひきこもり支援（新規）

民生委員を対象とした研修会を10月13日（水）に開催しました。開催にあたっては、丹波市民生委員児童委員連合会、丹波市自立支援課、丹波市子ども・若者サポートセンター、㈱ネクステの協力を得ました。

②コロナに負けるな！応援プロジェクト（新規）

新型コロナウイルスの感染予防対策のため、地域福祉活動が制限され人と人とのつながりが分断されようとしているなかで、丹波市社協が新型コロナウイルス感染症から人々の笑顔を守りさらに心のつながりを深め、地域福祉の推進に寄与することを目的として実施しました。

事業名	事業の趣旨	対 象	内 容
ありがとう ❤️メッセージで心つながる・つなげる事業	感謝や応援の気持ちを伝えることで、みんなでコロナ禍を乗り切る機運を高める。 メッセージをきっかけとしてあたたかな人間関係や地域づくりに寄与する。	丹波市民	・メッセージ募集期間 令和3年3月20日～10月31日 ・応募総数 222件 ・協力団体 ①生涯学習応援隊 so-so.39 メッセージ動画を作成 ②㈱タンバンベルグ ゆめタウンゆめ広場で8月10日（火）～13

事業名	事業の趣旨	対 象	内 容
			日(金)の3日間、メッセージ記入&撮影コーナーを開設しメッセージを募集。また、11月13日(土)~18日(木)の9日間メッセージを展示。 FM805 たんばパーソナリティに依頼し、随時メッセージの読み上げ放送 ③FM805たんば ラジオでメッセージ募集の呼びかけ ・社協広報紙やHPを通じて、コロナ禍だからこそ「人が人を想うあたたかな心」を市民から市民へつなげることができた。
制服等バトンタッチ事業	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、収入が減少し生活が苦しくなった世帯に対して学用品のリサイクル事業を実施する。	市内認定こども園保護者、小・中学校保護者	・物品提供数 449 点 ・希望品申請世帯数 105 世帯、464 点 ・マッチング世帯数 73 世帯、304 点 ・マッチングできなかった物品は保管一覧表を作成し、教育機関や自立支援機関へ周知、次年度で引き継ぐ。
がんばる団体を応援！事業	コロナ禍において、感染予防を行いながら、市民が笑顔になれるような取り組みを目的とする事業に対して、助成を行う。	丹波市在住・在勤者で構成される団体	・1団体当たり5万円までの助成で2団体の応募があった。 - 団体① 生涯学習応援隊 so-so39 による ありがとうメッセージ動画作成 - 団体② Bee 夢クラブによる種まきから蕎麦作り ・神戸新聞3回、丹波新聞2回の新聞記事下 広告によりコロナ禍による丹波市社協の 地域活動応援事業の取り組みを広く周知 できた。また、ありがとうメッセージの動 画は成果物として今後も社協事業に活用 できるものとなった。
地元のお店を応援！事業	市内で接客を伴う商店等に対し、必要なマスク、消毒液等を配布し、“地元のお店を応援しています”の応援メッセージを届ける。	丹波市内の接客を伴う商店	・上限の200店舗に配布を行った。 ・支所を通じ社協職員が配布し、物品と応援メッセージを届けた。 ・地元の会社と新たなつながりができ、社協の事業PRも行うことができた。
しゃきょうたすけあいフー	コロナ禍により生活困窮となっている世帯	【提供】 丹波市民	・第1回 2月実施 41世帯95人に配布 ・第2回 4月実施 40世帯92人に配布

事業名	事業の趣旨	対 象	内 容
ドドライブ事業	帯に対し、主に市民の持ち寄りによる食料品の提供で一時的にでも生活環境の改善を行う。	【申込】 丹波市内のひとり親世帯、食料を必要とする世帯	・第3回 8月26日、27日実施 45世帯104人に配布 ・第4回 12月16日、17日実施 95世帯224人に配布 ・これまで丹波市民、コープこうべのフードドライブ、コープ基金によるお米等の寄付、丹波市商工会青年部、スマイル・FM805、職員等から集めた食品の寄付、丹波市内のスーパーマーケットより空き箱の提供、篤志家からの農産物や冷凍食品の寄付、善意銀行から食料品購入を行い対応 ・3回目から丹波市の補助を受けている

③団体事務助成及び支援

団体名	助成金（円）
丹波市老人クラブ連合会	—
丹波市身体障害者福祉協議会	200,000
丹波市手をつなぐ育成会	80,000
丹波市婦人共励会	—

④在宅寝たきり者世帯歳末見舞の贈呈

歳末たすけあいの一環として、在宅で介護されている世帯に、民生委員を通じ見舞品（おしりふき本体・詰め替え、使い捨て手袋）を配布しました。

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
世帯数	11	36	8	20	17	14	106

⑤独居高齢者宛書状制作、発送

地 域	暑中見舞		年賀状	
	発送者数	ボランティア延べ人数	発送者数	ボランティア延べ人数
柏 原	214	220	212	212
氷 上	319	124	325	163
青 垣	164	98	165	96
春 日	256	13	253	13
山 南	274	268	270	8
市 島	209	204	206	207
合 計	1,436	927	1,431	699

⑥見舞金支給

支 所	区 分	件 数	金 額 (円)
氷 上	火災見舞金	1	30,000
春 日	火災見舞金	1	30,000
春 日	火災見舞金	1	30,000
合 計		3	90,000

3) 子育て・教育支援

ファミリーサポートやアフタースクールなど、子育て世代に対する支援を行います。また、小中学校、高校等における福祉教育に対し、共同募金を財源とした助成を行いました。

①福祉教育助成事業

小中学校 29 校中 27 校へ、323,866 円の助成（27 校中 4 校が 0 円で報告）

柏原高校、氷上高校、氷上特別支援学校へ 146,592 円の助成

②福祉教育研修会の開催

福祉教育を担当している小・中学校の先生方を対象に、夏休み中に研修会を開催しました。

開催日	会 場	研修内容	参加者数
8 月 17 日	氷上健康福祉センター	車いすの使い方・福祉用具の使用 方法の指導と実技	23 名

③丹波市ファミリーサポートセンター

（１）講習会や研修会などの開催

開催日	名 称	場 所	参加者数
4 月 27 日	サブリーダー委託・研修会	柏原福祉センター	中止
7 月 2 日	親子ふれあい交流会		12 組
7 月 15 日	フォローアップ講習会		10 名
10 月 14 日	サブリーダー研修会		5 名
11 月 4 日	子育て支援講習会		10 名
11 月 17 日	子育て支援講習会		6 名
	ママカフェ（講習会と同時開催）		
12 月 14 日	親子ふれあい交流会		10 組
3 月 2 日	フォローアップ講習会		中止

（２）登録会員数

	依頼会員	協力会員	両方会員	計
令和 3 年度	133	77	25	235

（３）活動実績

アフタースクールから塾や習い事への送迎や、自宅までの送迎活動が活動実績の大半であり、短時間での活動が増えました。

	活動延べ回数	活動延べ時間
令和３年度	441 回	289 時間
前年度	382 回	317.5 時間

④アフタースクール事業

令和３年度末の委託終了に向け、丹波市担当課、職員（指導員）と協議し、新年度から受託される民間企業（シダックス大新東ヒューマンサービス株式会社）へ引き継ぎを行いました。

コロナ禍の影響により学校の授業時間や休校の変更等、職員（指導員）の配置に苦慮することが多く、また、三密を完全に回避することも不可能なので職員への負担も増えました。

今年度はコロナ禍であっても継続運営していたため、利用者数は前年度の利用者人数を上回りました。

	３月末	前年度同期
崇広小学校延べ利用者数	18,705	17,947
新井小学校延べ利用者数	5,494	5,203

⑤認定こども園助成

園児の遊び道具や絵本などの購入に活用いただきました。

助成先	助成額（円）
認定こども園ミライズにじ	48,000
認定こども園ミライズそら	50,000
認定こども園ふたば	50,000
認定こども園いくさと	50,000
認定こども園ぬぬぎ	48,000
認定こども園さちよ	50,000
認定こども園あおがき	50,000
認定こども園かすが花の子園	50,000
認定こども園かすが森の子園	50,000
認定こども園みつみ	50,000
認定こども園わだ	50,000
認定こども園あいいくの丘	50,000
認定こども園いちじまこども園	50,000
合 計	646,000

４）ボランティア活動・団体支援

丹波市ボランティア・市民活動センターに登録しているボランティアグループの活動を助成支援しているほか、ボランティア登録・派遣調整、ボランティアの養成を行いました。

①ボランティアグループに対する活動助成

助成先	グループ数	助成額（円）
丹波市ボランティア協会	—	80,000
丹波市ボランティア協会各支部	4	320,000
丹波市ボランティア協会所属グループ	32	379,800
丹波市ボランティア協会未所属グループ	36	353,800
合 計		1,133,600

②ボランティアまつり開催経費の助成

感染拡大防止のため各支部とも開催中止され助成していません。

③福祉団体等助成

助成先	助成額（円）	申請内容
株式会社ネクステ ウェルワークたんば	253,000	刈払機、計量器、業務用シーラー
社会福祉法人 恩鳥福祉会	107,000	エアコン及び設置費
特別非営利活動法人ひかみボルゴベネッセレ	200,000	ロッカー、パイプいす、収納用品
一般社団法人 峰松農園	233,000	管理機、軽量ポンプ購入
丹波市特別支援教育研究部	120,000	運営費
かすがおもちやライブラリーどりいむ	15,000	県協会費
山南おもちゃライブラリーぴよんぴよん	15,000	県協会費
合 計	943,000	

④ボランティア登録・派遣調整

活動分野	登録団体数	登録人数
保健・医療または福祉の増進を図る活動	61	998
まちづくり活動	2	26
学術、文化、芸能、スポーツの振興を図る活動	26	411
環境の保全を図る活動	6	107
災害支援活動	0	0
地域安全活動	2	55
国際協力の活動	0	0
子どもの健全育成	9	99
情報社会	1	3

活動分野	登録団体数	登録人数
その他	4	86
合 計	111	1,785

⑤災害ボランティア支援事業

年度を通じて申請はありません。

⑥ちーたん災害サポートネット連絡会議の開催（新規）

平成 26 年 8 月丹波市豪雨災害時に連携協定を結んだ市内の団体を対象に、連絡会議（講演会）を開催し、いざという時の連携体制を整える思いを新たにしました。

開催日	場 所	内 容
1 月 17 日	氷上健康福祉センター	講演会「災害ボランティアセンターと関係団体との平時からの連携について」 被災地 NGO 協働センター 頼政良太氏

⑦いきいき百歳体操サポーター派遣

丹波市社協各支所より、各いきいき百歳体操の開催場所に派遣調整を行いました。

⑧ボランティア講座・交流会等の開催

講座名	開催状況
くらし応援隊養成講座	9 月・3 月に各 4 回コースで開催
趣味から創造する生きがいがづくり講座	（柏原支所）寄せ植え講座 12 月 26 日に実施し 19 名参加 （氷上支所）オリジナルクリスマスリースづくり 12 月 11 日に実施し 26 名参加 （青垣支所）感染拡大防止のため中止 （春日支所）ノルディックウォーキング体験講座 3 月 5 日に実施し 6 名参加 （山南支所）感染拡大防止のため中止 （市島支所）感染拡大防止のため中止
サマーボランティア体験教室	（柏原支所）アフタースクールでのボランティア活動を実施。延べ 93 名参加 （氷上支所）児童館での中学生によるボランティア活動を 7 月 27 日と 8 月 2 日の 2 日間実施。延べ 4 名参加 （青垣支所）感染拡大防止のため中止 （春日支所）小学生を対象にふくしの話と手話講座を実施。参加者の呼びかけや場所の提供な

講座名	開催状況
	ど各地区自治協議会に初めて協力を依頼した。 春日部①7/28 12名 黒井 7/28 3名 春日部②7/30 12名 船城 8/3 3名 大路 8/4 12名 (山南支所) 子育て学習センター・小川自治振興会スマホ教室で中学生がボランティア体験予定だったが、感染が急拡大したことから中学校側の申出により参加中止となった。ボランティアに関するアンケート調査を実施。 (市島支所) 感染拡大防止のため中止
サロンボランティア交流会	(柏原支所) 感染拡大防止のため中止 (氷上支所) 感染拡大防止のため中止 (青垣支所) 感染拡大防止のため中止 (春日支所) 2月24日、28日に開催し22名参加 (山南支所) 感染拡大防止のため中止 (市島支所) 3月14日、15日、16日、18日に5地区を巡回し20名参加
図書館サポーター養成講座（全2回）	中央図書館で開催（5月29日、6月19日）
手話奉仕員養成講座（入門課程）	全20回の課程で開催（宣言期間中は延期措置） 修了者7名
手話奉仕員養成講座（基礎課程）	全22回の課程で開催（宣言期間中は延期措置） 修了者3名

5) 情報提供・啓発活動

①広報紙の発行

年度内に6回、隔月（奇数月）発行を行いました。下半期から広報委員会を社協職員で組織し、市民に読んでいただける内容を協議し実践しました。

②ウェブサイト・SNSの運営

ホームページは必要に応じ更新を行い、Facebookは支所を中心に順番に更新を行いました。
また、Instagramを開始し、主に若年層への働きかけの手段として活用しました。

③社協ふくしまつりの開催

『社協ふくしまつり 2021～つなげる・つながる・つながろう！～』を11月27日（土）に春日文

化ホールにて開催しました。

コロナ禍のため入場制限を設けることとなりましたが、フリーアナウンサーの清水健氏を迎え、「共に支えあうことの尊さ」と題した講演会、各種の表彰、社協事業紹介やありがとうメッセージの展示を行いました。

④福祉バザー

各支所とも、感染防止の観点から中止としました。

3.生活支援事業

1) 生活困窮者支援

コロナ禍により収入が減少した方を対象に、全国で「新型コロナウイルス特例貸付」として緊急小口資金、総合支援資金の貸付が令和2年3月25日から始まりしました。その後、約3ヶ月ごとに延長措置が繰り返され、現在は令和4年8月末日で終了することとなっています。

①生活福祉資金の貸付（特例貸付）

◆緊急小口資金の申し込み状況（3月末現在：社協受付分のみ）

受付月	受付件数	申込総額	申請者住所	申請累計件数
令和元年度（3月）	2件	300,000	柏原町	81件
令和2年度（年間）	255件	45,930,000	氷上町	113件
令和3年4月	14件	2,600,000	青垣町	39件
5月	9件	1,800,000	春日町	45件
6月	14件	2,700,000	山南町	67件
7月	14件	2,700,000	市島町	34件
8月	14件	2,700,000		
9月	10件	2,000,000		
10月	14件	2,650,000		
11月	8件	1,600,000		
12月	5件	740,000		
令和4年1月	4件	800,000		
2月	9件	1,750,000		
3月	7件	1,050,000		
合 計	379件	69,320,000		
（うち、令和3年度）	122件	23,090,000		

◆総合支援資金の申し込み状況（3月末現在）

受付月	初回貸付受付件数	初回貸付申込総額	申請者住所	申請累計件数
令和元年度（3月）	0 件	0	柏原町	53 件
令和2年度（年間）	190 件	102,390,000	氷上町	91 件
令和3年4月	6 件	3,300,000	青垣町	33 件
5月	10 件	5,250,000	春日町	36 件
6月	10 件	5,400,000	山南町	44 件
7月	9 件	4,800,000	市島町	32 件
8月	17 件	9,090,000		
9月	10 件	5,400,000		
10月	7 件	3,900,000		
11月	11 件	5,350,000		
12月	7 件	3,700,000		
令和4年1月	2 件	600,000		
2月	6 件	3,250,000		
3月	4 件	2,400,000		
合 計	289 件	154,830,000		
（うち、令和3年度）	99 件	52,440,000		

②従前の生活福祉資金の貸付

緊急小口資金の貸付申請が1件、教育支援資金の貸付申請が1件ありました。（氷上支所）

③福祉資金の貸付（3月末現在）

生活福祉資金（コロナ特例貸付）の実施、コープのフードドライブの活用により、申請状況は低調となっています。

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
貸付総件数	4	7	0	3	0	0	14

④物品援助事業

通常、善意銀行を財源として申請者に対し物品支援を行っていますが、コープこうべの食料援助及びフードドライブ、社協の備蓄食料の活用により、前年度と比べ申請が少なくなりました。

地 域	柏 原	氷 上	青 垣	春 日	山 南	市 島	合計
件 数	0	0	0	0	0	2	2
援助額(円)	0	0	0	0	0	13,719	13,719

２）権利擁護

①日常生活自立支援事業

ケアマネや市役所自立支援課、地域包括支援センターから紹介があり、新規契約が３件、施設入所、補助人の選任、死亡による解約が１件ずつ計３件ありました。

支 所	利用者（名）	R 3 新規件数	R 3 解約件数	生活支援員（名）
柏 原	7	1	1	3
氷 上	5	0	1	2
青 垣	1	0	1	2
春 日	7	0	0	2
山 南	1	1	0	1
市 島	3	1	0	2
合 計	24	3	3	12

②心配ごと相談

感染防止のため、緊急事態宣言期間中は心配ごと相談員による相談を中止し、社協職員による相談活動を行いました。

支 所	開設回数	延べ相談者数
柏 原	6	2
氷 上	6	0
青 垣	6	2
春 日	6	1
山 南	6	4
市 島	6	2
合 計	36	11

③無料法律相談

無料法律相談は感染防止対策を取りながら通常通り開設しました。

開設回数	延べ相談者数
24	137

4.支所別地域支援目標

今年度事業方針及び重点推進項目を達成していくため、下記の通り地域支援目標を定め、達成に向け努力しました。

【統一目標】

対 象	目 標	
すべて	A	社協が独自に要支援者の情報や地域課題など、意識した情報収集を行う
自治会等	B	出張教室を5ヶ所以上で開催し、自治会等とのつながりをつくる
	C	自治会を単位とした地域福祉に関する懇談会を2ヶ所以上で開催し、現在の地域課題について共に考える
	D	ふれあい・いきいきサロンは10ヶ所以上を訪問し、運営等の相談に乗り支援を行う
	E	コミュニティカフェは新たに3ヶ所以上を支援し、地域における集いの場づくりを行う
自治協議会等	F	管内全地区を毎月1回以上訪問し、地域の状況を把握し関係をつくっていく
	G	打ち合わせ段階から、地域支えあい推進会議に地域支えあい推進員と一緒に出席する
他団体等	H	学校や企業、社会福祉法人と共に、お互いが連携できるような取組みを考える

【進捗状況達成度測定基準】（支所自己評価）

◎／目標をクリア、○／約80%程度クリア、△／約50%程度クリア、×／目標未到達

①【統一目標の達成度】

目標	柏原支所	氷上支所	青垣支所	春日支所	山南支所	市島支所
A	◎	◎	◎	◎	◎	◎
B	×	×	◎	×	◎	◎
C	×	×	×	×	×	×
D	×	×	◎	×	◎	×
E	×	×	×	×	×	×
F	◎	◎	◎	◎	◎	◎
G	◎	◎	◎	◎	◎	◎
H	×	◎	×	◎	◎	×

【支所別地域支援目標】

支 所	対 象	目 標	達成度
柏 原	自治会等	出張福祉教室の開催 (2回開催)	◎
	自治会等	ふれあい・いきいきサロン、コミュニティカフェの開設支援 (3ヶ所以上)	×
	自治会等	いきいき百歳体操開催場所への訪問 (3ヶ所訪問)	◎
	小・中学校	福祉学習の開催支援 (2回以上)	◎
	市民	自治会入りしていないアパート等へのポスティングによる社 協会費の案内 (アパート等への社協会費依頼 1,090 件中 28 件)	◎
	法人・企業他	法人・企業への社協地域福祉活動への応援依頼 (前年度より法人会費 31 件増)	◎
	福祉委員・市 民	福祉委員による地域の見守り体制づくり (福祉委員活動シート配布)	◎
	小・中・高校	サマーボランティア(小中学校)の参加者を2名以上増やす (柏原高校サマーボランティアのアフタースクールボランテ ィアで延べ93名参加)	○
	法人・企業他	法人募金2件増	○
氷 上	福祉委員・市 民	福祉委員による地域の見守り体制を整える (福祉委員活動シートの活用)	○
	自治会等	ふれあいいきいきサロン訪問(聞き取りアンケートの実施) (3ヶ所訪問)	△
	自治会等	いきいき百歳体操訪問	△
	ボランティア	活動現場の訪問と取材(困りごとの聞き取り) (7ヶ所訪問)	◎
	自治振興会等	毎月1回以上の訪問	○
	市民	支所通信の発行 希望者にメールなどで定期配信を行う (年3回発行)	△
	法人・企業他	法人会費・法人募金の新規開拓を行う(+会費3件、+共同 共募5件) (会費新規6件増、共同募金新規4件増)	○
	小・中学校	福祉学習を4回以上行う (5回実施)	◎
	市民・民児協	地域ボランティア「うかがい隊」の設立・推進を行う (サロン等開催自粛でアンケートの実施等ができなかった)	×

支 所	対 象	目 標	達成度
	市民	自治会入りしていないアパート等へ会費を依頼する (1,050 件ポスティングし、35 件から納入)	◎
青 垣	自治会等	サロンやいき百の未実施自治会等に地域の現状を伝え、サロン等実施に向け推進する(2ヶ所以上)	×
	自治会等	支所からの情報発信(プチ通信を作成し、自治協、サロン、つどいの場等へ配布) (年4回、プチ通信を発行している)	◎
	関係機関等	地域包括支援センター等と連携を密にし、支えあい活動の推進を行う (地域住民からの相談やいき百について等、地域包括支援センターと連絡、相談を図っている、佐治地区の支えあい推進会議の委員にもなってもらっている)	○
	法人・企業他	法人会費や法人募金の新規開拓(2ヶ所)を行う (法人会費で新規1件増である)	×
	市民	自治会入りしていないアパート等へ会費や共募の協力依頼を行う(会費の協力依頼のみ行った)	×
	ボランティア	地域ニーズに応じたボランティアグループの養成とボランティア同士の連携を強化する (趣味から想像する生きがいくくり講座やサロンボランティア交流会を企画していたが実施できなかった。)	×
	小・中・高校	福祉学習の支援、ボランティア活動支援、学校との連携を強化する (コロナの為、サマボラの実施や福祉教育に出向くことができなかったが、中学校で実施される福祉教育へ取材に行き、生徒にインタビューを行い、広報紙掲載した)	×
春 日	小・中学校	町内の小・中学校で出張教室の開催を目指す (黒井小、春日部小、進修小、船城小で実施)	◎
	高校	氷上高校と一緒に何らかの活動ができるよう働きかけ、活動を行う(コロナの為実施できなかった)	×
	市民	自治会未加入世帯への郵送での会員依頼(2件増) 篤志募金者を増やす。(新規会員2件増)	◎
	法人・企業他	共同募金法人募金を3件増やす(新規12事業所増)	◎
	小・中学校	サマーボランティア体験教室の参加者を5名以上増やす	◎
	市民	東部地域包括支援センターと要支援者・生活困窮者の情報を共有する(月1回定例会を開催、他に常時相談できる体制がとれている)	◎
	自治会等	ふくしのお便り(生活支援・支所通信)を作成配布	◎

支 所	対 象	目 標	達成度
		(毎月発行している)	
	自治会	ふれあいいきいきサロンへの理解と支援の要請。	◎
	自治協議会	地域福祉推進支援事業を実施できる案を共に考える (5 地区) (申請が 1 地区のみ)	×
	ボランティア	ボランティアグループへの取材とアンケートの実施	◎
山 南	自治会等	サロン未実施地区へ、開設に向けて声かけなどの支援を行う (未実施地区へ声かけするもコロナにより集うことへの不安からか開設に至らなかった)	×
		いき百実施団体 5 ヶ所へ訪問し、相談等の支援を行う (5 ヶ所訪問)	◎
	小・中学校	福祉学習の支援を行う (3 校に対し出張福祉教室実施。福祉専門職への調整も実施)	◎
	中学生	サマーボランティア体験教室は高齢者施設で体験を行う (コロナ感染拡大防止対策で施設は外部との交流を避けられているため、恒例の施設体験はできなかった。ボランティア体験先を新規開拓し、山南子育て学習センターと小川自治振興会主催のスマホ講座でのボランティア体験を行う予定だったが、コロナ感染が急拡大したため中学校側から参加中止の申し出があり実施できなかった。生徒にボランティアに関するアンケートをご協力いただいたので、来年度の講座の参考にする)	×
	ボランティア	ボランティアグループの取材を 3 件以上行う (5 件取材実施。支所通信やフェイスブックで広報した)	◎
	市民	アパートなどへ社協会費の依頼を行う (自治会未加入のアパート 64 世帯へ会費依頼文書をポスティングし、1 件の振込有り)	◎
	法人・企業他	ポスター掲示や募金箱設置などの依頼を通して、募金への関心を深めていただくなど、募金協力の幅を広げる (新規事業所 244 件へ法人募金依頼文を郵送、加えて 38 件は依頼文郵送のうえ職員が訪問し新規 20 件の協力を得た)	◎
市 島	自治会等	いきいきサロン、又はいきいき百歳体操体験などの集いの場を 1 ヶ所以上増やす (いきいき百歳体操の場を 2 ヶ所増やすことができた)	◎
		いきいきサロン又はいきいき百歳体操など、地域の集いの場への訪問を毎月 2 回以上行う	×

支 所	対 象	目 標	達成度
		(コロナ禍で開催が少なかったこと、及び支所業務都合により 10 回の訪問となった)	
	自治会・学校等	出張福祉教室を 5 回以上開催する (学校 2 回、地域 3 回の計 5 回開催ができた)	◎
	自治振興会	推進会議の打ち合わせや会議に推進員と一緒に 100%参加する (打合せ 8 回、推進会議 6 回の機会全てに参加した)	◎
	市民	一般会費及び共同募金戸別募金の協力依頼として、自治会未加入の 150 世帯以上にその都度ポスティングを行う (一般会費は 6 月に 171 世帯実施したが、共同募金は実施できなかった)	×
		ふくしのお便りを春日支所と合同で毎月発行し、自治会組回覧により全世帯へ地域福祉の情報を届ける (4 月号は春日支所と合同で、5 月号以降は市島支所単独で毎月発行し、自治会組回覧を行うことで情報を届けた)	◎
	法人・企業他	法人会費の協力をいただいていない事業所に対し、訪問依頼を 20 社以上行う (7 月に法人会費協力依頼として 23 社に訪問依頼を行った)	◎
	ボランティア	ボランティア協会市島支部の理事会に 100%参加し、活動に必要な支援を行う (8 回の理事会に 6 回参加した。支所事業との重複で参加できない場合も、事前事後のフォローを丁寧に行うことで参加に代えている)	◎

5.介護福祉サービス

■事業所別行動目標

今年度事業方針及び重点推進項目を達成していくため、下記の通り各事業所の具体的な目標を定めます。

- ①…具体的な目標数値
- ②…重点目標である「安全・安心なサービス提供」のために具体的に取り組むこと
- ③…目標数値達成のために具体的に取り組むこと

【進捗状況達成度測定基準】

- ◎／目標どおり達成した。
- ／目標どおりではないが、概ね達成した。又は進行している。
- △／あまり達成できなかった。又はやや取組みが遅れている。
- ×／大幅に達成できなかった。

東部ケアマネジメントセンター

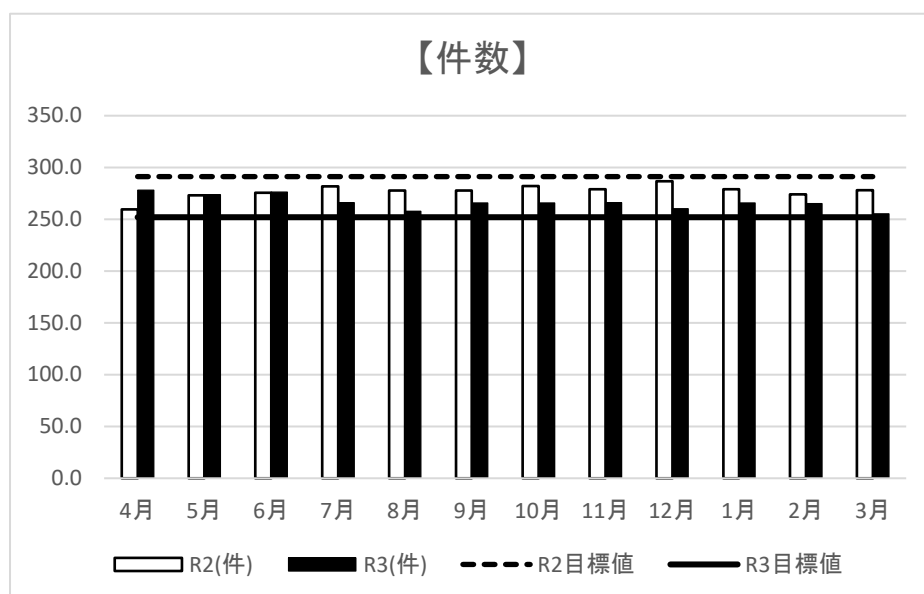
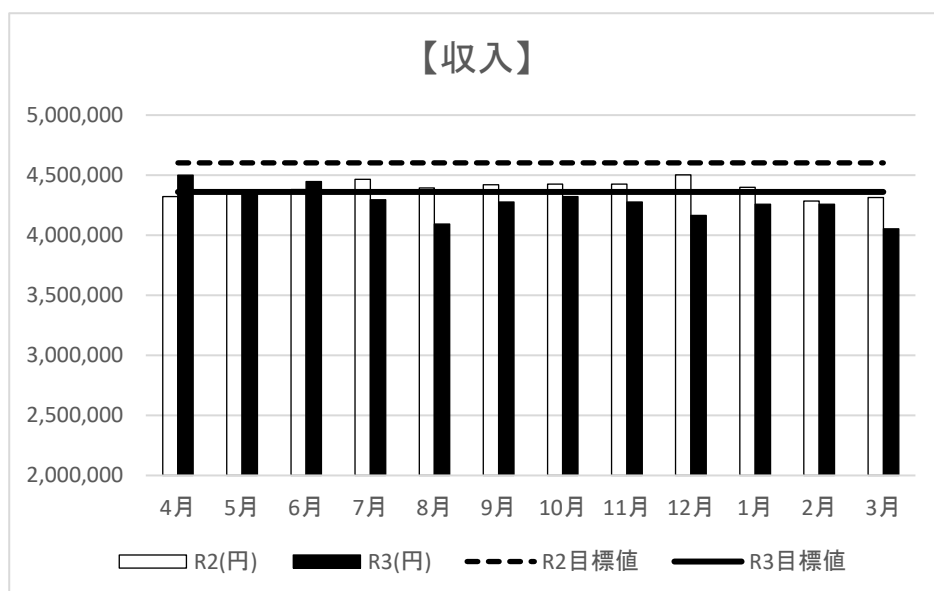
収入目標額	52,330,000 円	年度末（達成率）	51,319,842 円 (98.1%)
目 標			達成度
①ケアマネ 1 人当たりの月平均担当件数 正規：35.5 件 嘱託：32 件 臨時：26 件 ※月平均請求件数 278 件⇒252 件			◎ 266.1 件
②定期的な事例検討会により意見交換や相談しやすい関係をつくり、情報や知識の共有を事業所全体で行い、適切にケアマネジメントに反映できるよう努めます。			○
③業務効率化に取り組む姿勢を常に意識し、タブレット活用の ICT 導入検討など簡素化に努めます。			△
実績評価	4 月から常勤職員 1 名減し、年度当初においては、ケアマネ 1 人当たりの担当件数が予定を上回る中、緊急対応やターミナル対応などの利用者家族等からの相談に応じました。利用者の増減推移をみながら、東部地域包括とも連携し新規を受け入れました。通年で目標件数を超えることができました。事務作業が遅延しないように次年度に向け、計画的に利用者数を管理できるようにしたいと思います。 コロナウイルス感染症予防のため、事務所を分散し、施設内でオンライン会議を実施し職員間の意見交換を行い、情報や知識の共有に努めました。外部のオンライン会議や研修にも慣れ、研修にも多く参加できました。事務所分散の弊害を防ぐため、各事務所内でカメラを設置して在席確認を行い、また、データサーバーのファイル共有化で事務の効率化を行いました。 しかし、タブレット機器等の ICT 機器導入については業者から説明会を受けて以降、検討も進んでいません。研修を重ねてタブレットを使用したいと思います。		

●東部居宅 ※R2→R3 正規・嘱託各1名減・臨時2名増（R2:正規5名・嘱託2名・臨時2名 R3:正規4名・嘱託1名・臨時4名）

収入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	4,321,570	4,359,670	4,380,460	4,464,050	4,393,830	4,420,690	4,424,920	4,424,180	4,502,350	4,397,230	4,283,730	4,311,950
	R3(円)	4,499,600	4,361,330	4,447,340	4,295,180	4,091,050	4,274,930	4,320,120	4,276,120	4,164,780	4,257,590	4,256,340	4,051,700
	R2目標値	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417	4,601,417
	R3目標値	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833	4,360,833
件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(件)	259.5	273.0	275.5	281.5	277.5	277.5	282.0	279.0	286.5	279.0	274.0	278.0
	R3(件)	278.0	273.5	276.0	266.0	257.5	265.5	265.5	266.0	260.0	265.5	265.0	255.0
	R2目標値	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0	291.0
	R3目標値	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0	252.0

※R3目標値は臨時職員1名欠員のため、月平均担当件数278件を252件に修正

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ



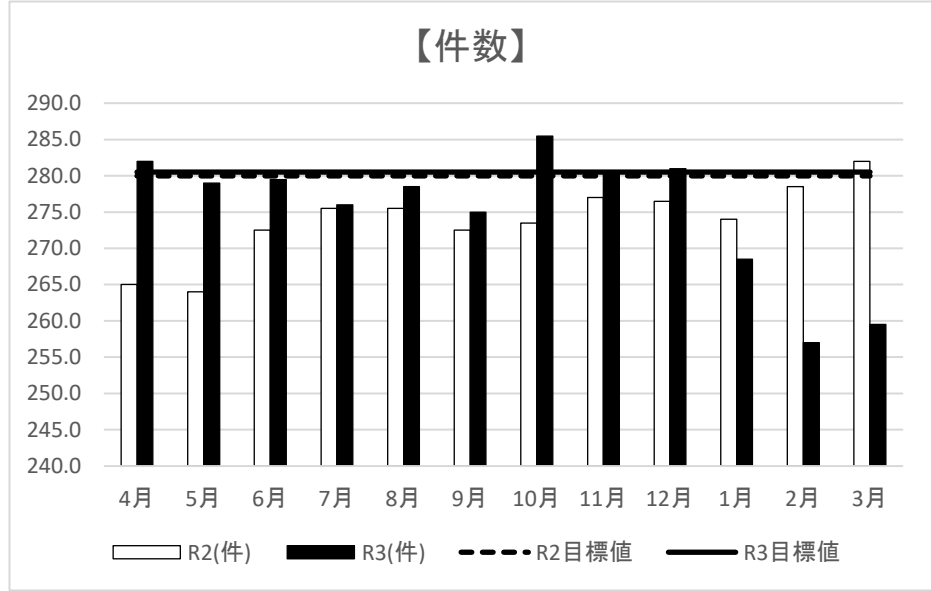
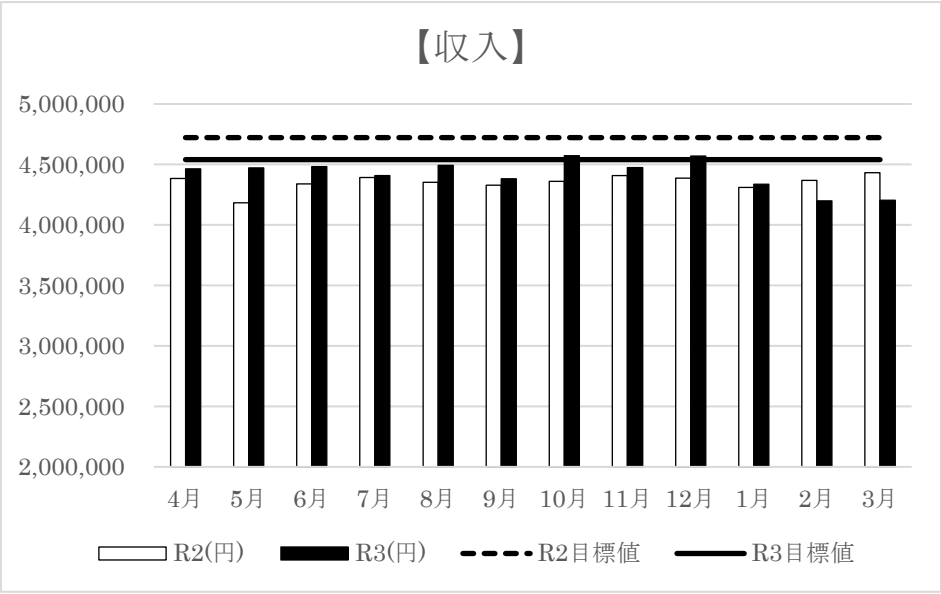
西部ケアマネジメントセンター

収入目標額	54,480,000 円	年度末（達成率）	53,084,990 円 (97.4%)
目 標			達成度
①ケアマネ 1 人当たりの月平均担当件数 正規：35.5 件 嘱託：32 件 ※月平均請求件数 280.5 件			○ 275.2 件
②利用者の価値観を尊重しながら、適切なケアマネジメントができるよう、相談援助の向上に重点的に取り組みます。			○
③職員一人一人が目標数値に対する意識を持てるように、月 1 回の定例会で目標額と実績を対比し、共有します。			○
実績評価	令和 3 年度下半期は、担当件数調整のため、10 月から新規受け入れを控えていたため、1 月～3 月の稼働率が減少しています。最終的に令和 2 年度に比べると達成率は低くなっています。 4 月からは、各々の職種に応じた目標数値を、月 1 回の定例会で確認しながら、目標達成に向けて取り組んでいきます。 保険者からの指導（ケアプラン適正化事業）を受けたことで、改めて事業所内での振り返りを行い、ケアプラン作成についても再度情報共有しました。また、参集型やオンラインでの研修にも各自参加し、自己啓発にも努めました。		

●西部居宅 ※R2→R3 正規1名減・嘱託1名増（R2:正規8名 R3:正規7名・嘱託1名）

収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	4,384,800	4,183,820	4,340,470	4,391,120	4,352,860	4,328,000	4,361,690	4,407,110	4,386,320	4,310,480	4,368,010	4,432,030
	R3(円)	4,464,500	4,472,160	4,481,670	4,408,600	4,491,430	4,382,500	4,572,900	4,473,010	4,568,620	4,337,860	4,198,320	4,204,500
	R2目標値	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833	4,721,833
	R3目標値	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000	4,540,000
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(件)	265.0	264.0	272.5	275.5	275.5	272.5	273.5	277.0	276.5	274.0	278.5	282.0
	R3(件)	282.0	279.0	279.5	276.0	278.5	275.0	285.5	280.5	281.0	268.5	257.0	259.5
	R2目標値	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0	280.0
	R3目標値	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5	280.5

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ



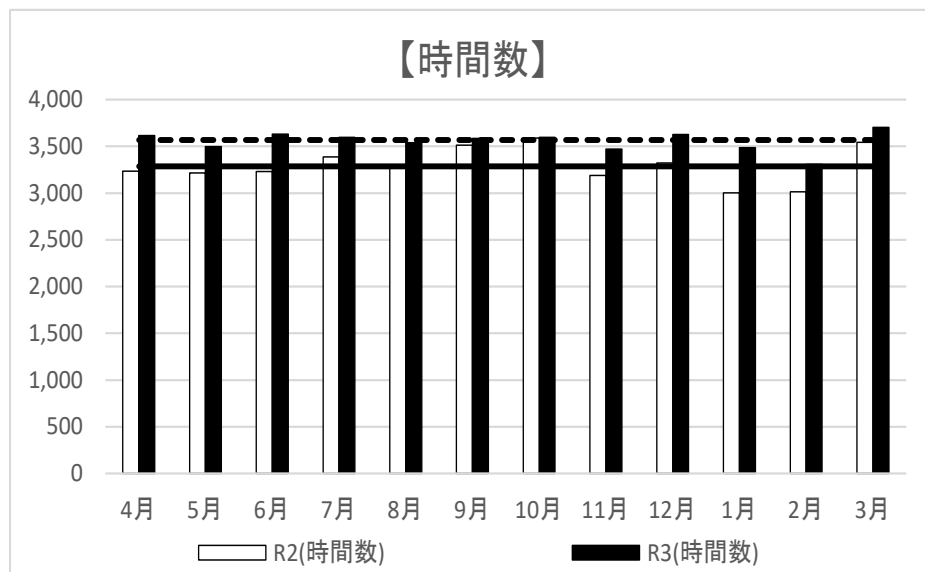
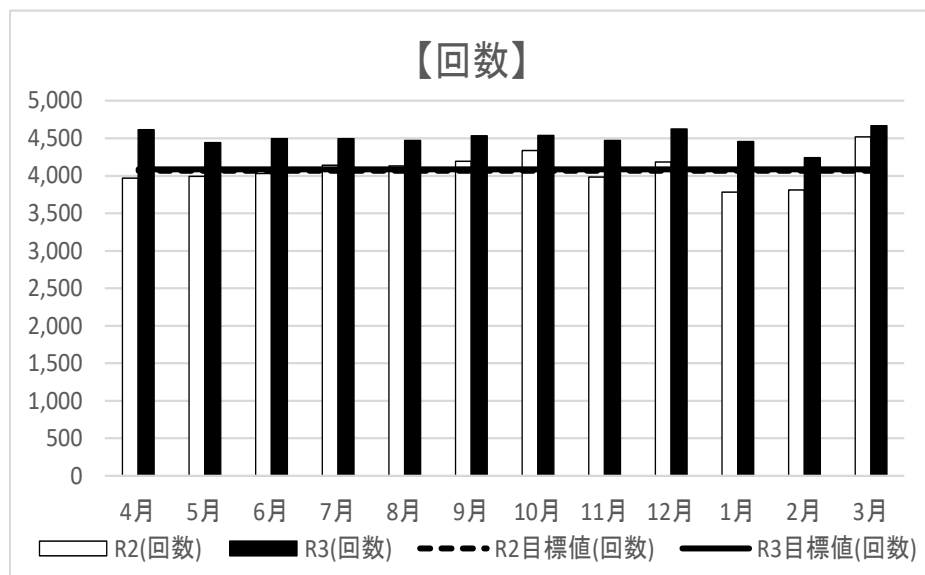
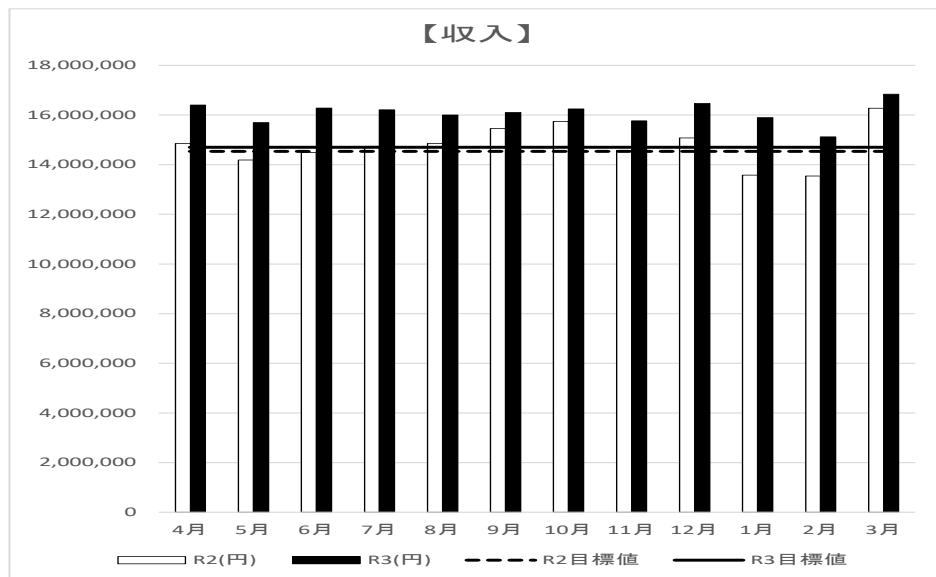
ホームヘルプセンター

収入目標額	176,416,000 円	年度末（達成率）	193,118,331 円 (109.5%)
目 標			達成度
①ヘルパー 1 人当たりの月平均訪問回数・時間 正規：69 回 58 時間 嘱託：55 回 54 時間 登録ヘルパー：70 回 55 時間 ※月平均訪問回数 4,085 回 月平均訪問時間 3,288 時間			◎ 4,505 回 3,555 時間
②感染予防対策に努め、利用者が安心できるサービスを提供します。また、資質向上のため、リモート研修に積極的に参加します。			○
③毎月の収入等実績を職員間で共有し、目標額達成についての意識向上を図ります。目標達成にはヘルパーの人員確保が大きな課題となっていますが、離職防止のため、パワハラや困難事例を見逃さないよう発見後すぐに介護保険課へ報告し、適切な対応策を協議していきます。			◎
実績評価	コロナ禍の中、前年度同様に新規利用者が毎月平均 10 名以上あり、訪問回数、時間、収入も目標を達成しています。今年度は、他事業所の廃止に伴う利用者の引継ぎも数名ありました。また、ケアマネと連携を密にとり、信頼される事業所となるようサービスを提供していきました。 今年度は、研修が少なく出席の機会が減少していましたが、来年度は、積極的に出席していきます。 目標達成のためには、ヘルパーを確保することが重要ですが、介護職員不足は、ますます深刻な状況になっています。登録ヘルパーの高齢化もすすみ、新たな人材確保に向けての取り組み等、大きな課題が残されました。		

●訪問 ※R2→R3 正規2名減・嘱託1名増（R2正規16名・嘱託1名 R3正規14名・嘱託2名）

収入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	14,852,695	14,189,549	14,488,352	14,743,320	14,855,415	15,456,829	15,746,860	14,578,129	15,080,800	13,577,944	13,545,719	16,273,613
	R3(円)	16,403,137	15,693,483	16,282,008	16,207,574	16,000,736	16,102,493	16,247,444	15,764,398	16,469,002	15,893,516	15,124,121	16,844,796
	R2目標値	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500	14,534,500
	R3目標値	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333	14,701,333
回数・時間数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(回数)	3,969	3,991	4,029	4,140	4,132	4,194	4,337	3,985	4,185	3,784	3,810	4,517
	R3(回数)	4,615	4,442	4,497	4,493	4,473	4,535	4,537	4,472	4,623	4,457	4,244	4,667
	R2(時間数)	3,234	3,216	3,231	3,386	3,295	3,514	3,589	3,189	3,323	3,004	3,013	3,545
	R3(時間数)	3,616	3,499	3,631	3,596	3,541	3,587	3,595	3,473	3,628	3,487	3,308	3,702
	R2目標値(回数)	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068	4,068
	R3目標値(回数)	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085	4,085
	R2目標値(時間数)	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567	3,567
	R3目標値(時間数)	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288	3,288

※介護保険事業、障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ



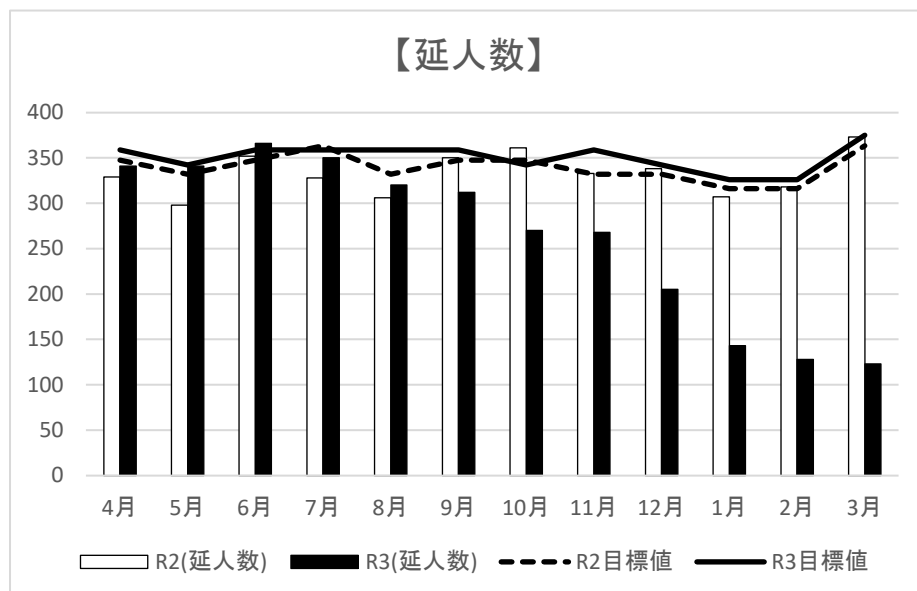
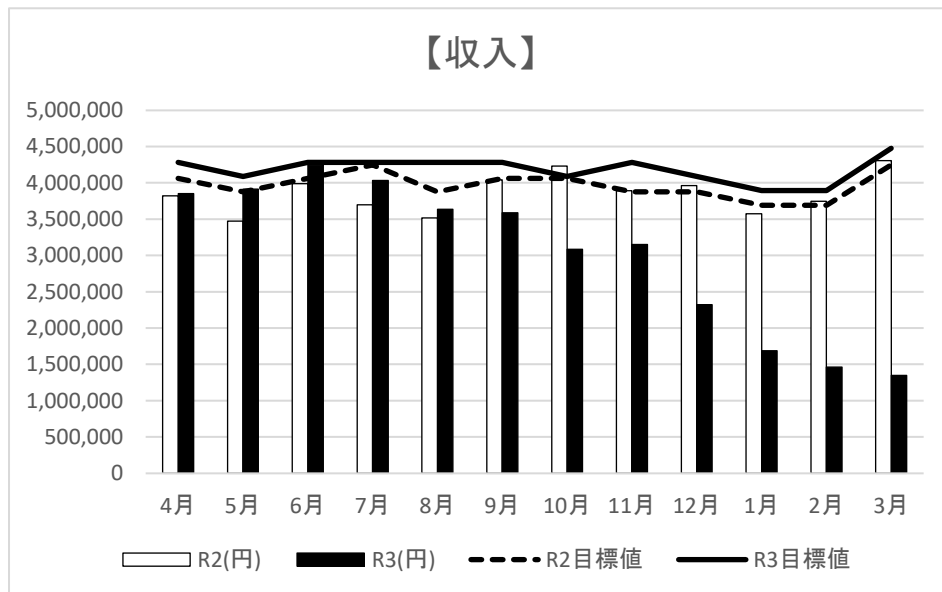
東部デイサービスセンター

収入目標額	50,223,000 円	年度末（達成率）	36,330,857 円 (72.3%)
目 標			達成度
① 1 日当たりの月平均利用人数 16.3 人 介護：13.2 人・総合サービス A：3.1 人 → 稼働率：介護 73.3%・総合 62.0% ※定員：介護（総合現行相当・障害含む）18 人・総合サービス A：5 人			× 介護 11.3 人 総合 1.0 人
② 毎日、利用者に関する気づき、引継ぎ等の報告・連絡・相談をお昼に行い、「ヒヤリハット報告書」を事務所と居室に配置し、記録管理、情報共有及び早期解決を図ります。 職員の知識・技術向上のため、月 1 回の定例会で困難事例を出し合い、職員間での共通理解を高め、良質なサービスを提供します。 事故検討委員会を 3 ヶ月に 1 回実施し、事故を風化させず職員の危機管理意識の向上に努めます。			○
③ 職員が自ら考え、職員間で話し合い行動する意識改革を行い、魅力ある選ばれるデイサービスの構築に努めていきます。 利用者、家族及び居宅介護支援事業所や関係機関と連携し、情報の提供、共有を行い、風通しの良い環境を作ることで、信頼関係をさらに強くしていきます。			○
実績評価	常勤職員 1 名の減員により人件費を削減し、6 月までの収入は概ね達成していましたが、地域福祉ビジョンに基づく総合的な判断により閉所が 6 月に決定したことに伴い 7 月からは利用者が減少し目標は達成できていません。 閉所に向けて利用者を担当の介護支援専門員と相談のうえ、他の事業所へ丁寧に全員移行しました。経費削減し、支出は減らして営業を行いました。		

●東部デイ ※R2→R3 嘱託1名減（R2正規3名・嘱託2名 R3正規3名・嘱託1名）

収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	3,821,105	3,474,270	3,990,100	3,699,080	3,516,581	4,039,546	4,231,610	3,890,105	3,962,109	3,572,752	3,745,679	4,306,499
	R3(円)	3,850,135	3,914,875	4,243,059	4,033,805	3,637,079	3,588,499	3,084,769	3,148,897	2,323,350	1,685,234	1,464,230	1,346,880
	R2目標値	4,059,938	3,875,395	4,059,938	4,244,481	3,875,395	4,059,938	4,059,938	3,875,395	3,875,395	3,690,853	3,690,853	4,244,481
	R3目標値	4,282,581	4,087,919	4,282,581	4,282,581	4,282,581	4,282,581	4,087,919	4,282,581	4,087,919	3,893,256	3,893,256	4,477,244
延 人 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(延人数)	329	298	352	328	306	350	361	333	338	307	318	373
	R3(延人数)	341	341	366	350	320	312	270	268	205	143	128	123
	R2目標値	347.6	331.8	347.6	363.4	331.8	347.6	347.6	331.8	331.8	316.0	316.0	363.4
	R3目標値	358.6	342.3	358.6	358.6	358.6	358.6	342.3	358.6	342.3	326.0	326.0	374.9

※介護保険事業、障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ



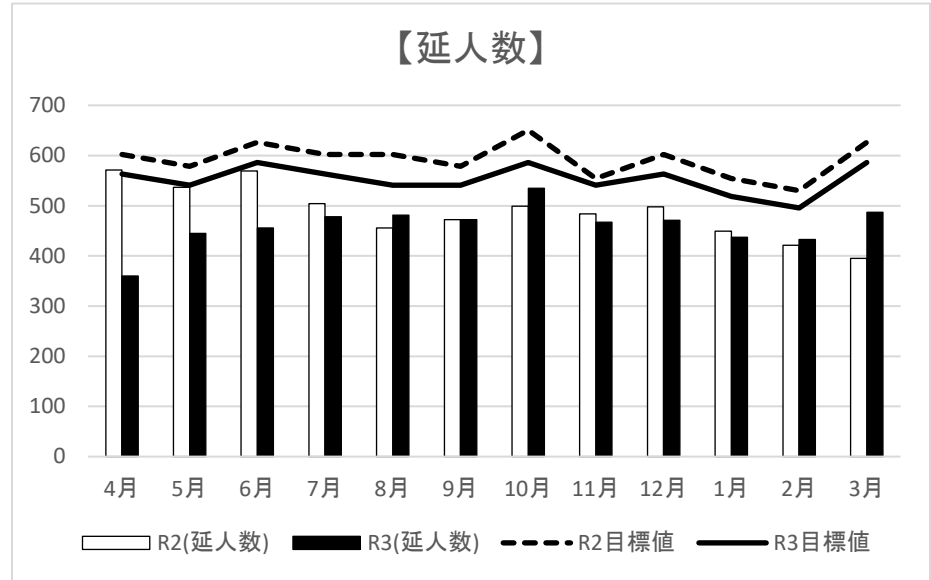
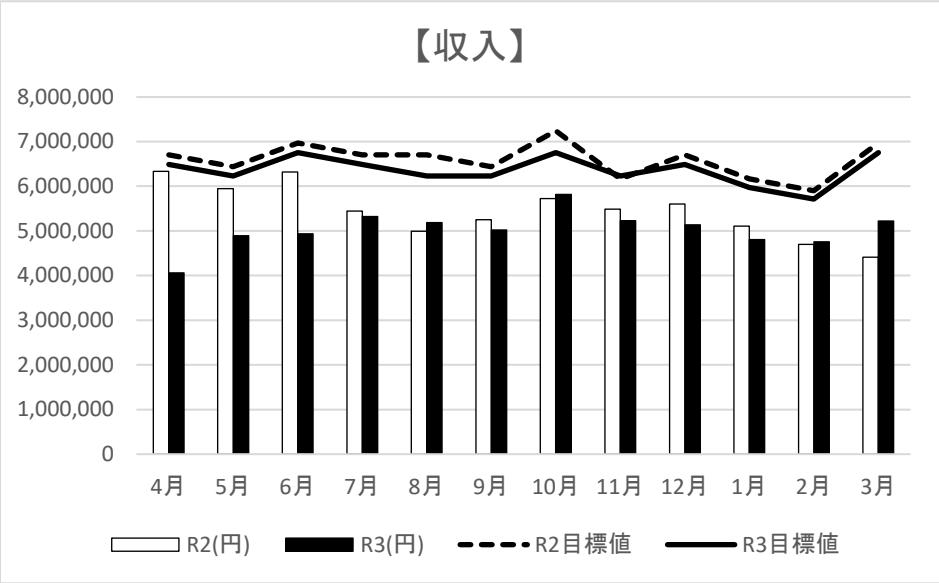
西部デイサービスセンター

収入目標額	76,324,000 円	年度末（達成率）	60,390,831 円 (79.1%)
目 標			達成度
① 1 日当たりの月平均利用人数 22.54 人 介護：22.3 人・総合サービス A：0.24 人 → 稼働率：介護 74.3%・総合 8.0% ※定員：介護（総合現行相当・障害含む）30 人・総合サービス A（週 3 日）：3 人			× 介護 18.0 人 総合 1.6 人
②朝礼では利用者の体調の変化などの情報を共有し、送迎後も家族からの情報を連絡ノートに記載するなど、職員間での周知を徹底します。 月 1 回の定例会にて各職種からの意見を共有し、対応を協議します。また、些細なことでもヒヤリハットに記録し、事故を未然に防ぐよう努めます。			◎
③毎日、職員が利用者数を気にかけるよう空き人数を書き出し、常に定員に対する利用者数の割合を稼働率とし、80%以上を心掛けて経営意識を高めます。 毎月、実績報告書を配布する際、当事業所の空き状況を記載して新規利用者の確保につなげます。			○
実績評価	4 月初めから営業を一時休止したことでその影響が数ヵ月続きました。 それでも、一年を通して 27 件の新規利用者を登録することが出来ました。しかし、入所や死亡が続き、登録者数は増加にはなっていません。 次年度に向けては、パンフレット更新や利用体験でアピールしていることで、新規利用者の確保に繋がっています。春日町からの利用者も 5 名登録することができました。（全登録者 67 名） コロナ感染においては、職員や利用者が濃厚接触者になることがあり、感染防止のため、休んでいただくなど、対策を講じてきました。日々注意して感染対策に取り組んでいます。		

●西部デイ ※R2→R3 正規1名減・嘱託1名増（R2正規4名・嘱託2名 R3正規3名・嘱託3名）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
収 入	R2(円)	6,329,800	5,944,045	6,317,250	5,445,210	4,993,680	5,251,630	5,723,250	5,486,429	5,599,247	5,109,580	4,695,540	4,414,000
	R3(円)	4,058,060	4,891,290	4,938,400	5,321,940	5,182,480	5,018,760	5,819,850	5,227,890	5,132,820	4,809,400	4,754,980	5,224,920
	R2目標値	6,702,373	6,434,278	6,970,468	6,702,373	6,702,373	6,434,278	7,238,563	6,166,183	6,702,373	6,166,183	5,898,088	6,970,468
	R3目標値	6,490,136	6,230,531	6,749,741	6,490,136	6,230,531	6,230,531	6,749,741	6,230,531	6,490,136	5,970,925	5,711,320	6,749,741
延 人 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(延人数)	571	537	569	504	456	472	499	484	498	449	421	395
	R3(延人数)	360	445	456	478	481	472	535	467	471	437	433	487
	R2目標値	602.5	578.4	626.6	602.5	602.5	578.4	650.7	554.3	602.5	554.3	530.2	626.6
	R3目標値	563.5	541.0	586.0	563.5	541.0	541.0	586.0	541.0	563.5	518.4	495.9	586.0

※介護保険事業、障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ



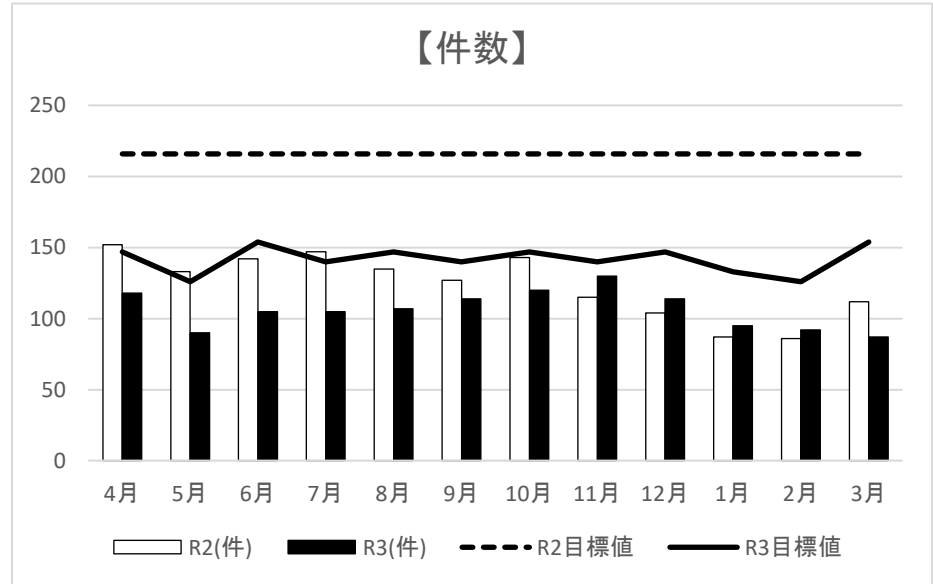
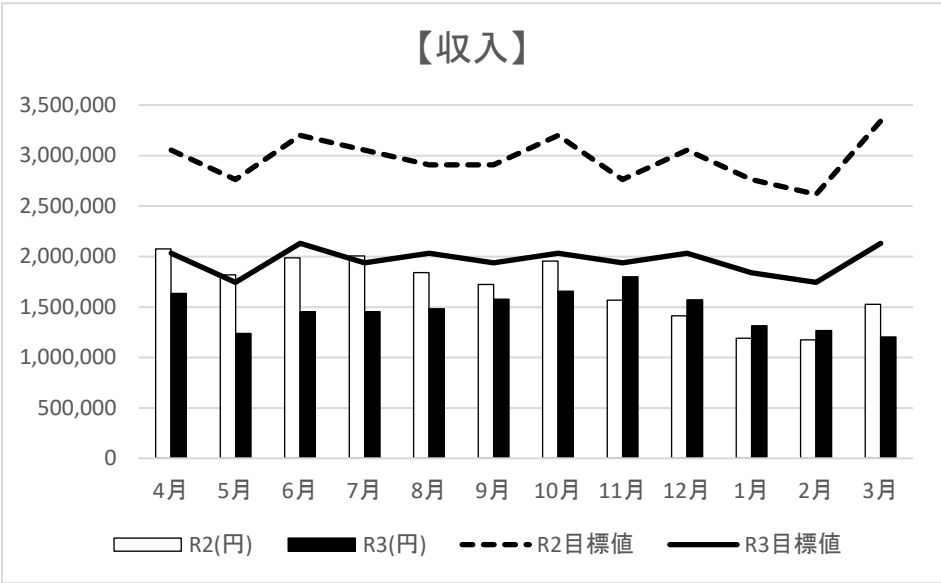
訪問入浴サービスセンター

収入目標額(補助金除く)	23,541,000 円	年度末(達成率)	17,664,082 円 (75.0%)
目 標			達成度
① 1 日当たりの月平均利用人数 7.0 人			△ 5.3 人
② 月 1 回定例会を開催し、利用者の身体状況を把握し、情報共有を行います。また、ヒヤリハットの記録を職員全員で共有し、事故を未然に防ぐよう努めます。			○
③ 訪問入浴車 1 台当たり 3 人体制の稼働日を増やし、月稼働率 50%以上を心掛けて 40%は堅持できるように努めます。			○
実績評価	4 月より正規職員 1 名を補充され、新規利用者の獲得を進めることとしましたが、臨時職員の長期休暇等により人員不足の状態が続いたため、予定通り進めることはできませんでした。また、新規利用者の受け入れを随時行いましたが、職員の不足により、受け入れを中止していた時期の影響もあり、目標件数には届きませんでした。 定例会は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、書類を作成しての情報共有に変更しました。ヒヤリハットについても全員で記録を把握し、対策を検討しました。 3 人体制での稼働率については、職員の技術習得度合いに合わせながら利用者の安全第一で進めたため、目標の数値は達成できませんでした。しかし、その中でも 30%を超える月もあり、可能な範囲で努力しました。		

●入浴 ※R2→R3 正規1名減 (R2.4月正規3名 R2.6月正規2名 R2.11月正規1名 R3正規2名)

収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	2,077,780	1,818,060	1,986,454	2,005,420	1,841,380	1,724,080	1,954,720	1,568,030	1,413,660	1,190,516	1,175,600	1,526,990
	R3(円)	1,635,320	1,237,400	1,452,920	1,454,270	1,482,660	1,578,560	1,656,390	1,799,920	1,571,490	1,315,330	1,266,080	1,202,410
	R2目標値	3,054,429	2,763,531	3,199,878	3,054,429	2,908,980	2,908,980	3,199,878	2,763,531	3,054,429	2,763,531	2,618,082	3,345,327
	R3目標値	2,034,407	1,743,778	2,131,284	1,937,531	2,034,407	1,937,531	2,034,407	1,937,531	2,034,407	1,840,654	1,743,778	2,131,284
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(件)	152	133	142	147	135	127	143	115	104	87	86	112
	R3(件)	118	90	105	105	107	114	120	130	114	95	92	87
	R2目標値	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216	216
	R3目標値	147	126	154	140	147	140	147	140	147	133	126	154

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ



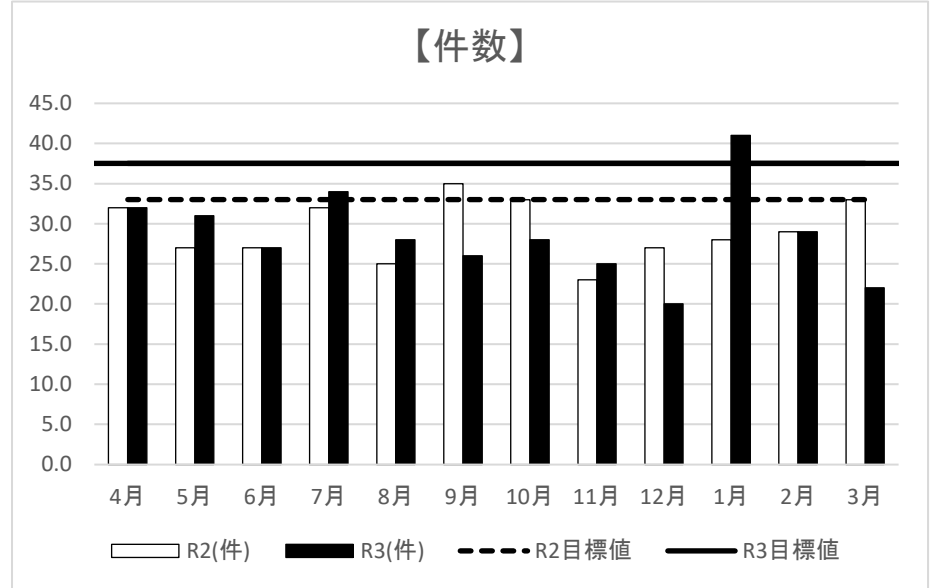
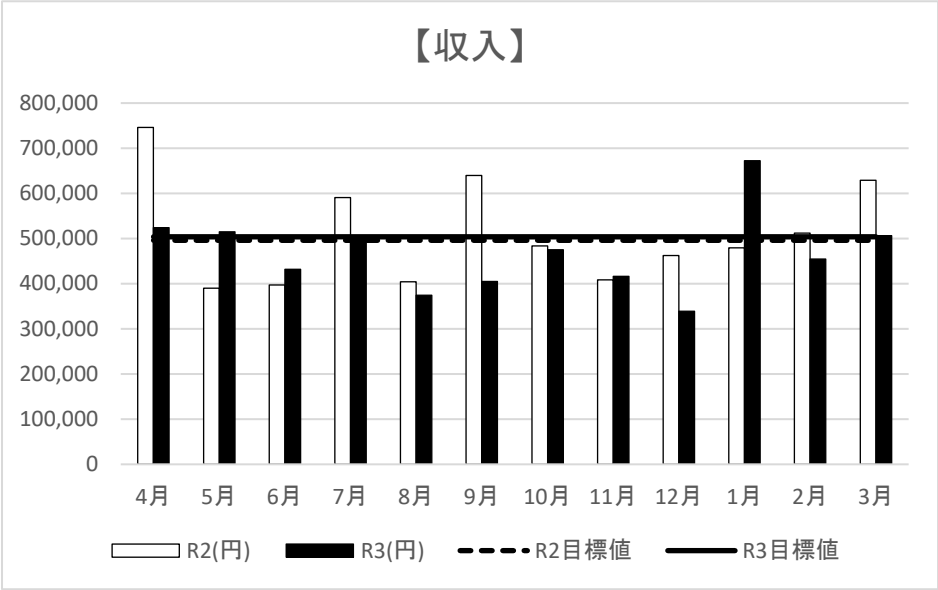
相談支援事業所

収入目標額(受託金除く)	6,041,000 円	年度末(達成率)	5,604,054 円 (92.8%)
目 標			達成度
① 相談支援員 1 人当たりの月平均請求件数 正規：23 件 臨時：11.3 件 ※月平均請求件数 34.1 件 担当件数 正規：54 件 臨時：30 件			△ 28.6 件
②職員の知識、技術力の向上のため、職員 1 人当たり年 2 回以上、研修を受講します。 勤務時間内にできる限り業務が終わるよう、事務の効率化を図ります。			◎
③社協の窓口相談や各利用者の家族の研修会・交流会に参加します。また、地域福祉課 や各支所の日常生活自立支援事業、生活福祉資金の担当者と連携を図ります。さらに 8050 問題も含め地域包括支援センターや行政との連携も深めていきます。			◎
実績評価	コロナの感染拡大に気を付けながら、家族会及び技術向上のための研修会に積極的に参加しました。 計画相談は精神疾患や発達障害の利用者の終結が多くあり、一般相談（受託）は家族等からの相談件数が多く、困難事例の場合は対応に時間がかかりました。		

●相談支援 ※R2→R3 職員増減なし(正規1名・臨時1名)

収 入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	745,700	390,250	397,320	590,320	403,850	639,780	483,510	408,360	462,310	479,510	511,770	628,690
	R3(円)	524,240	515,000	431,430	505,370	373,990	404,840	475,360	416,100	338,880	672,140	454,160	506,060
	R2目標値	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750	495,750
	R3目標値	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417	503,417
件 数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(件)	32.0	27.0	27.0	32.0	25.0	35.0	33.0	23.0	27.0	28.0	29.0	33.0
	R3(件)	32.0	31.0	27.0	34.0	28.0	26.0	28.0	25.0	20.0	41.0	29.0	22.0
	R2目標値	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0
	R3目標値	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5	37.5

※障害福祉サービス事業、受託事業、補助事業収入のみ



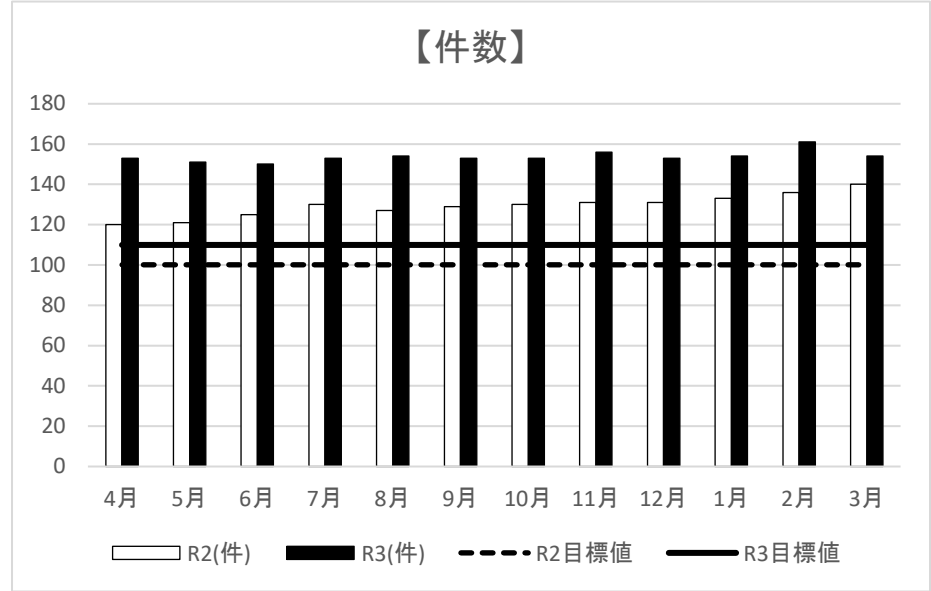
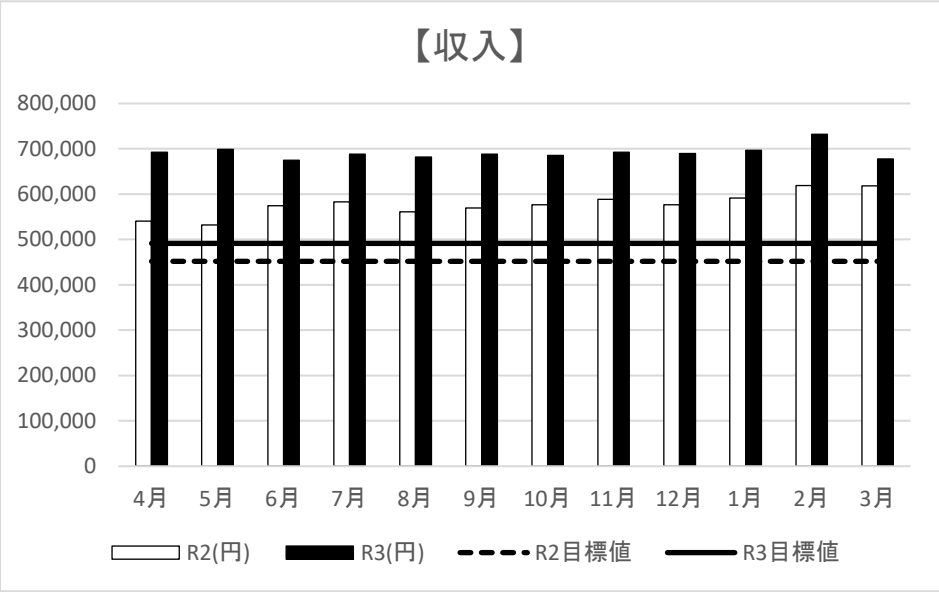
東部地域包括支援センター（介護予防）

収入目標額(補助金除く)	5,898,000 円	年度末(達成率)	8,345,780 円(141.5%)
目 標			達成度
①ケアマネ1人当たりの月平均担当件数 正規：50件 嘱託：50件 社会福祉士及び看護師人当たりの月平均担当件数 正規：5件 嘱託：5件 ※月平均請求件数110件			◎ 153.8件
②週1回の総合相談スクリーニング開催時にヒヤリハットを共有し、事故防止に努めます。			◎
②週1回の総合相談スクリーニング開催時にヒヤリハットを共有し、事故防止に努めます。			◎
実績評価	ケアマネ1人当たりのプラン作成実績は月63.7件、3職種での実績も月26.8件で推移し、収入は目標額を大幅に超えています。 ヒヤリハットについては、その都度職員全員で共有し、協議しながら業務を遂行しています。		

●東部包括 ※R2→R3 職員増減なし（正規1名・嘱託1名）

収入		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(円)	540,440	531,820	574,370	582,610	560,680	569,300	576,610	588,230	576,610	591,230	618,780	618,400
	R3(円)	692,670	698,450	674,890	688,060	682,060	688,060	685,140	692,280	689,520	696,900	732,180	677,520
	R2目標値	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500	451,500
	R3目標値	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500	491,500
件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	R2(件)	120	121	125	130	127	129	130	131	131	133	136	140
	R3(件)	153	151	150	153	154	153	153	156	153	154	161	154
	R2目標値	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	R3目標値	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110	110

※介護保険事業、受託事業、補助事業収入のみ



東部地域包括支援センター（地域包括）

目 標		達成度
①地域に出向き住民の声を聴く活動を展開し、「ちいきの保健室」を春日 2 ヶ所、市島 2 ヶ所以上開催します。		○
②関係機関との連絡・連携を意識して行動します。		◎
③相談者に対し丁寧な対応と求められている内容を確認し、面接を終えるよう行動します。		◎
実績評価	①「ちいきの保健室」については、地域へ開催の呼びかけを行いました。コロナ禍もあり、市島で 1 カ所の開催にとどまりました。 ②民生委員さんや介護サービス等の事業所、行政の各担当部署など、常に関係機関との連絡や連携を意識して行動しました。 ③相談者が何に困って、何を求められているのかを意識して面接を行い、相談者が納得されるような対応を心がけています。	

■その他の事業

①介護職員初任者研修（補助事業）

地域における介護の担い手の養成と就労支援を目的に開催しました。

開催期間：5月16日～12月15日まで（講義・演習20回、現場実習2回）

受講生：19名

②障がい者就労支援事業（受託事業）

春日庁舎内で「ちゃれんじスペース」を運営し、障がい者の就労を支援するため、自主製品の販路拡大と安定的な仕事を確保します。

業務内容	実績額(円)	開設日数(日)
自主製品の販売（パン、手芸品、アクセサリ等）	625,310	147
喫茶	211,200	147
市役所内の軽作業	283,371	31
喫茶接客業務	0	0

ちゃれんじスペースふれあいまつり（11月予定）は、就労支援事業所の出店による野外イベントのため、新型コロナウイルス感染防止の観点から中止としました。

③障がい者相談支援事業（受託事業）

障がい者本人や家族等を対象に、相談支援専門員が一般的な困りごとに必要な情報の提供、助言等を行います。

【相談者別】

障がいの種別	知的	身体	精神	発達	高次脳機能	難病	その他	合計
実人数(名)	12	7	19	3	2	0	5	48
延べ回数(名)	39	21	106	5	5	0	11	187

【相談内容別】

支援内容	福祉サービスの利用等	障がいや病状の理解	健康・医療	不安の解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他	合計
延べ人数(名)	21	20	11	13	1	6	6	5	10	7	0	3	48
延べ回数(名)	35	33	30	28	1	11	9	8	18	8	0	6	187

◆令和3年度 事業所別稼働率一覧表

事業所名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間平均
① 東部ケアマネジメントセンター	110.3%	108.5%	109.5%	105.6%	102.2%	105.4%	105.4%	105.6%	103.2%	105.4%	105.2%	101.2%	105.6%
② 西部ケアマネジメントセンター	100.5%	99.5%	99.6%	98.4%	99.3%	98.0%	101.8%	100.0%	100.2%	95.7%	91.6%	92.5%	98.1%
③ 東部デイ(介護・現行相当)	80.6%	85.2%	86.4%	82.6%	74.0%	72.2%	64.8%	63.1%	49.2%	42.3%	38.0%	31.0%	64.1%
④ 東部デイ(サービスA)	20.0%	18.1%	21.8%	20.9%	24.5%	23.6%	23.8%	16.4%	18.1%	16.0%	14.0%	13.9%	19.3%
⑤ 西部デイ(介護・現行相当)	46.3%	59.2%	55.6%	61.1%	63.8%	62.6%	66.0%	62.6%	59.9%	60.7%	62.9%	59.7%	60.0%
⑥ 西部デイ(サービスA)	36.1%	57.6%	52.4%	55.6%	56.4%	53.8%	55.6%	48.5%	56.4%	30.0%	32.7%	28.0%	46.9%
⑦ ホームヘルプセンター(回数)	113.0%	108.7%	110.1%	110.0%	109.5%	111.0%	111.1%	109.5%	113.2%	109.1%	103.9%	114.2%	110.3%
⑧ ホームヘルプセンター(時間数)	110.0%	106.4%	110.4%	109.4%	107.7%	109.1%	109.3%	105.6%	110.3%	106.1%	100.6%	112.6%	108.1%
⑨ 訪問入浴センター	80.3%	71.4%	68.2%	75.0%	72.8%	81.4%	81.6%	92.9%	77.6%	71.4%	73.0%	56.5%	75.2%
⑩ 東部地域包括支援センター	139.1%	137.3%	136.4%	139.1%	140.0%	139.1%	139.1%	141.8%	139.1%	140.0%	146.4%	140.0%	139.8%
⑪ 相談支援	85.3%	82.7%	72.0%	90.7%	74.7%	69.3%	74.7%	66.7%	53.3%	109.3%	77.3%	58.7%	76.2%

【数値目標の基準】

① 居宅介護支援	正規:35.5件 定年後再雇用・嘱託:32件 臨時:26件	④ 訪問介護	正規:69回58時間 嘱託:55回54時間 登録ヘルパー:70回55時間
② 東部デイ	介護:73.3%(13.2人) 総合:62.0%(3.1人)	⑤ 訪問入浴	1日あたり月平均利用者数 7.0人
③ 西部デイ	介護:74.3%(22.3人) 総合:8.0%(0.24人)	⑥ 東部地域包括	ケアマネ:50件 社会福祉士等:5件 ⑦ 相談支援 月平均請求件数 37.5件

※東部ケアマネジメントセンターの稼働率は臨時職員1名欠員のため、月平均担当件数278件を252件に修正している。

※デイサービスセンターの定員変更に伴い、1月以降は東部デイ(介護・現行相当)の定員を18名から15名、西部デイ(サービスA)の定員を3名から5名に修正している。

※東部デイ(サービスA)の稼働率が低い要因は総利用定員が大きいためであり、社会貢献的な事業である。(東部デイは週5日・定員5名、西部デイは週3日・定員3⇒5名)

介護保険事業について

前年度の職員新規採用で介護支援専門員及び訪問介護員が十分確保できなかったため、上半期は関係事業所の職員に業務負担を強いる結果となりました。臨時職員や登録ヘルパー等ハローワークを通じて募集しましたが、十分な補充ができませんでした。

丹波市をはじめ、多くの地域で、介護職員、介護支援専門員等の専門的な知識を有する職員の高齢化や不足が深刻化しています。事業に多大な影響を及ぼす可能性もあり、今後の課題として、計画的な職員採用を行ってまいります。

各事業所の事業計画において目標とした数値及び目標額を達成しているのは、ホームヘルプセンター及び東部地域包括支援センター(介護予防)です。

東部デイサービスセンターは、地域福祉ビジョンに基づく総合的な判断により令和3年度末の閉所を決定したため、7月以降は利用者が減少しました。

西部デイサービスセンター前年度末から4月上旬、事務所内の職員にコロナ感染者が複数発生したことにより営業を一時休止し、その後も利用者数が伸びず収入減少を招いています。東部デイサービスセンター閉所決定したことにより、年度の途中から春日地域からの利用者も受け入れるなど、利用者確保に向けた動きも行いました。

訪問入浴サービスセンターは、新規利用者を随時受け入れています。臨時職員の長期休暇等に伴う人員不足、新たに採用した臨時職員が業務に慣れるまでの期間が必要なことなどにより、入浴車1台当たり3人体制の稼働率が低くなっています。

東部・西部ケアマネジメントセンター、目標数値・目標額に達しておりませんが、安定した運営となりました。

相談支援事業所については、生活相談など、相談のみの対象者が多く、報酬算定対象者が増加せず、目標収入に達しませんでした。

